まえへ9曲　うしろへ9曲

デジタル選曲

マイクロコンピューター搭載。どこまで進化するのかラジオカセット。

メタル&フェザータッチ



マイクロコンピューター
ステレオ パディスコ 8800

TRK-8800 ¥84,800

●高級デッキなみの操作感覚フェザータッチ ●2モーターシステムが可能にした高精度回転ワウ・フラッター0.06%(W.R.M.S) ●メタルテープの性能をフルに引き出すメタル対応ヘッド搭載 ●曲の頭出し思いのまま、繰り返し聞けるリピートデジタル選曲機構 ●テープを初めから終わりまで繰り返し自動演奏するオートリワインドプレイ機構

●2ウェイ・4スピーカーシステム(16cmウーハー×2+5cmツイーター×2) ●実用最大出力10W(5W+5W) EIAJ/DC ●大きさ 幅55.6×高さ31.8×奥行17.3(cm) ●重さ 8kg(乾電池含む)

★選曲のために、曲と曲との間に3秒間以上の無信号部分が必要です。

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI RADIO CASSETTE RECORDER



HITACHI

上手に使って上手に節電



くらしを豊かに…
「日立新技術シリーズ」

日立の新技術・新アイデアから生まれた代表商品です。このエレクトロニクスの基本技術は、日立カセットレコーダーに共通して生かされています。



日立家電販売株式会社　〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111
日立クレジット株式会社　〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

お求めは、お手軽なお支払い日立のクレジット

★ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合、クレジットがご利用いただけます。
★商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

●日立カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。●日立カセットレコーダーには保証書がついています。ご購入の際には必ず記入事項をご確認のうえ、お受取りになり大切に保存してください。

全日本男子も新陣容（55年度名簿）発表

日本協会は、10月25日東京での常務理事会で、強化部提出の「55年度男子ナショナル・チーム名簿」を承認した。

男子ナショナルチームの活動は、モスクワ・オリンピック不参加から、6月21日の〈解散試合〉（既報）を最後に〝休止〟していたものだが、秋のシーズン開幕とともに、活発な動きを再開した。

なかでも「55年度男子ナショナル・チーム」の再編成は、女子が早々と新陣容を決定（本誌189号既報）したことから、注目が集っていた。

竹野奉昭監督を中心とする男子コーチング・スタッフは、8月31日大阪での会合で、かなりの時間をさいて、この問題を協議、チーム編成の大筋を確認した上で、選手のノミネートを、竹野監督と木野コーチに一任した。

焦点はモスクワ・オリンピック代表選手（14名）のほか、どのような顔ぶれが付け加えられるか、であったが、発表された名簿をみると新人は一人も加えずベテラン主体。オリンピック代表選考前に〝復元〟されたに留まり、鮮度という点では、やや意外な構成となった。

これについて竹野監督は「54年度の編成時点で14人の新人を加えており（=本誌176号参照）、今回は、意識的に若手を加えなかった」と説明している。

コーチングスタッフとしては、すでに、次代へのスタートは、昨年度に切っている、という観点に立っており、むしろ、昨年度リストアップした14人のルーキーから3選手をふるい落したことが、今年度名簿の特色といってもよい。

また、来年度に世界ジュニア選手権(12月・ポルトガル)が控えていることも、シニアへの新戦力補強をためらわせたといえる。なお今回発表の26名には、来年の世界ジュニアには出場資格はない。

新・全日本は、11月10日から名古屋で顔合せを兼ねた約1週間の強化合宿を行うが、コーチングスタッフは、今後の強化活動の合理化、能率化を企るため、つねに26人の〝全員集合〟で行わず、かつて採用した「A・Bセクション」法式で進めていくことを申し合せ常務理事会の承認も取りつけている。

竹野監督の構想では「Aセクションがオリンピック代表14人、その他の12人がBセクション」のようだ。

新ナショナルの当面の目標は、来年の世界選手権予選だが、その前に、来年2月のクウェート国際には、Aセクションに、Bセクションから2～3名を加えて遠征、そのあと、ユーゴ、西ドイツ、スペイン、スイスを転戦する計画が立てられている。

来春、欧州遠征を計画

これと併行して、Bセクションの残り9～10名に、世界ジュニアの柱となる選手を加えた「もう一つの全日本」を編成、ベルギー、ルクセンブルグ、フランスなどに遠征させることも考えられており二つの全日本は、西ドイツでいちど合流、ここでチームの編成替えを行ない、スペイン、スイスに乗りこむという、かつてない強化プランが、現在、実現へ向かってねりあげられている。

オリンピック不参加ショックがどうやら薄らいできた時期での新編成。56年には世界選手権予選、57年度にはアジア選手権(イラク)、世界選手権(西ドイツ)、58年度にはロサンゼルス・オリンピック予選、59年7月にはロサンゼルス・オリンピックと大目標がひしめく今後だけに「55年度ナショナル」が、どのような出足をみせるか、その成果に期待したい。

昭和55年度男子ナショナルチーム

▽GK				
岡部	大	(25才・大崎電気)	182cm	53年11月
原田	昭昌	(23才・大崎電気)	181	54年6月
□福井	秀人	(28才・湧永薬品)	180	52年6月
□大畑	孝広	(23才・本田技研鈴鹿)	184	54年6月
□井藤	英忠	(21才・日体大)	185	52年6月
▽FP				
□津川	昭	(29才・湧永薬品)	180cm	49年1月
□穂積	豊彦	(28才・湧永薬品)	180	49年1月
□山本	倖二	(27才・湧求薬品)	178	53年11月
□池ノ上	孝司	(25才・湧永薬品)	185	52年6月
生駒	靖夫	(25才・湧永薬品)	185	52年6月
□志賀	良弘	(24才・湧永薬品)	187	52年6月
□大原	真造	(28才・大同特殊鋼)	175	54年6月
柳川	実	(26才・大同特殊鋼)	175	49年1月
□中本	満明	(26才・大同特殊鋼)	184	52年2月
□蒲生	晴明	(26才・大同特殊鋼)	192	48年8月
□関	健三	(25才・三陽商会)	180	54年2月
山口	哲史	(22才・三陽商会)	178	54年6月
猪野	栄一	(21才・中大)	185	54年6月
田口	長雄	(21才・中大)	186	54年6月
西山	清	(21才・筑波大)	181	54年6月
矢島	富士雄	(23才・筑波大)	185	54年6月
□斉藤	将一郎	(27才・湯沢ク)	187	48年8月
□斉藤	幸司	(26才・大崎電気)	174	49年1月
辻本	孝仁	(24才・大阪イーグルス)	177	54年6月
松井	幸嗣	(23才・栃の葉ク)	178	54年6月
仲田	稔	(22才・千葉教員)	184	54年6月

・右欄年月は全日本入りを示す。
□印はモスクワ・オリンピック代表

『ハンドボール』

55年11月号(第191号)目次

【表紙写真】栃の葉国体・成年女子の部決勝。優勝した栃木（日立栃木）の毛塚が飛びこむ。対熊本（立石電機）戦から。
【スポーツ・イベント提供】

世界ジュニア選手権
男女とも来年4～6月に予選か

来年の男女世界ジュニア選手権は、いずれもアジア地域予選の行われる可能性が濃くなった。

ＩＨＦ(国際ハンドボール連盟)は、10月15日、来年の世界ジュニア選手権について、その細目を発表したが、それによると参加国は男女とも16カ国に限定された。

これまで2回の大会は、男女ともフリー参加で行われたが、前回の男子に24カ国が参加、デンマーク、スウェーデン両国にまたがって大会を運営せざるを得なくなりしかも、今後ますます参加国が増大する傾向にあるため、ＩＨＦはシニア同よう、参加国数に枠をはめることを決めていた。

問題は、その数と地域配分数だったが、今回の発表で、男女ともヨーロッパ大陸12カ国、アジア、アフリカ、アメリカ各大陸各1、開催国（男・ポルトガル、女・カナダ）の計16と発表され、日本協会関係者は、ショックをうけている。

というのは、シニアはともかくジュニアは、発展途上のアジア、アフリカ、アメリカ各大陸に、最低各2の配分が期待されていたからで、それが、シニア同よう、ヨーロッパ偏重の数字が打ち出されたのである。

配分数もさることながら、アジア地域で、予選実施ともなれば、これまでのシニアとアジア選手権（男子のみ）のほか、ジュニア部門のアジア予選もスケジュールされなければならず、経費的に各国の負担は、ぼう大なものとなる。

ＩＨＦは、今回に関しては、来年4月から6月までの間に、大陸予選を終了するよう指示しているが、日本協会強化部筋では、男女とも日本のほか、韓国、中国、台湾のエントリー必至とみており、このほか、男子はサウジアラビア、クウェートなどの参加も充分に予想される。

日本との交流を望んだ朝鮮民主々義人民共和国（北朝鮮）の登場の可能性もあり、そうなれば、予選会のスケールは、かなりのものとなる。

しかし、来年は、82年の男女世界選手権（シニア、詳細未定）の予選も行われねばならない。

いちだんと組織を固めているＡＨＦ(アジア・ハンドボール連盟)が、はたして、どのような手を打つか注目されるが、ジュニアの予選は、期日もはっきりしているだけに、早急に、ジュニア対策の具体化が迫られることになった。

＜注＞ＩＨＦは今夏8月の総会で、中国加盟にともない、台湾を「中国タイペイハンドボール協会」の名称で、ＩＨＦ資格を認めることとした。

台湾協会が、この名称での活動を拒否した場合、世界選手権予選などには出られない。

代表メンバーに高校生加えず
荒川理事長が言明

日本協会・荒川清美理事長は、10月16日栃木市で、来年の世界ジュニア選手権の日本代表メンバーに高校生を加えないことを明らかにした。

世界ジュニア選手権は、来年10月カナダで女子が、同12月ポルトガルで男子が行われ、女子は一九六一年（昭和36年）以降生れ、男子は六〇年（昭35）以降生れに出場資格がある。

日本では、実業団の若手、大学生の一部のほか、高校界の有力選手も当然〝適格者〟となる。

前回は、男子で4人、女子で5人の高校生が候補選手（54年度ジュニア・ナショナルチーム）となり、男子の若杉正裕、小野司（ともに久留米工大付高＝当時）の両君が、晴れの代表選手に選ばれている。

しかし、荒川理事長はかねてから、高校選手の強化合宿参加やノミネートには、慎重な姿勢を崩さず、学業に影響のある時期での海外遠征は不適当としていた。

今回の言明は、前掲のとおり、世界ジュニア選手権もアジア予選がさけられなくなったことなどもあり、強化筋が、ジュニア・ナショナルの発表をする前に、日本協会としての態度を正式に打ち出したものである。

なお、今年度のジュニア・ナショナルチーム（男女）の名簿は、第3回世界ジュニア選手権候補選手として、早ければ11月中に発表される予定だが、理事長の言明で現在の高校1、2年生がノミネートされる可能性は、ほとんどなくなった。

来春に「ジュニア研修会」

日本協会強化部の男子コーチ会議が、8月31日大阪で開かれ、ジュニア対策について、意見が交かんされた。

来年の世界ジュニア選手権の代表は、前回（昨年10月・デンマーク、日本19位）の選手のなかで、今回も有資格の10選手を主体に、木野コーチが中心となって早急にリストを作成することとなった。

また、今春各地で開いた「ジュニア研修会」は、各ブロック協会と全日本学連、全日本実連、全日本自衛隊連、全国高体連に、改めて主旨の説明を行ない、来春1～4月に実施するよう具体案をねることでまとまった。

なお、女子のジュニア対策は、すでに一部の選手が、8月のナショナル合宿に参加、活動を始めている。

「アジア・ユース」検討か
新春にＡＨＦ理事会

アジア・ハンドボール連盟（ＡＨＦ）は、来年1月または2月、クウェートで理事会を開くと発表した。

同理事会では第3回アジア選手権（男子のみ）、アジア・レフェリー、コーチコースなどの問題が検討されるほか「アジア・ユース選手権」の開催について協議すると伝えられる。

日本からは、渡辺和美（東京都協会々長）、荒川清美（日本協会理事長）両氏が、ＡＨＦ理事に選出されている。

なお、クウェート協会によれば日本などが参加を予定している来年2月の「クウェート国際」の会期は、2月9日から16日までに正式決定した。

日本はソ連などとB組

世界学生選手権予選リーグ

第8回世界学生選手権は12月28日から新春1月4日までフランスのパリ、リヨンなどで行われるがこのほどフランス学生スポーツ連盟は、予選リーグの組み分けを次のように決めた。

▽A組　フランス、ハンガリー、アメリカ、アフリカ地域代表
▽B組　日本、ソ連、ブラジル、コンゴ
▽C組　ユーゴ、ブルガリア、スペイン、コート・ジボアール
▽D組　ルーマニア、西ドイツ、ベルギー、イスラエル

◇

4年ぶりの開催とあってか、エントリーは16カ国をかなり上廻ったようで、いちおうは予選説も出たが、結局、前掲16カ国におさまり日本は前回3位のソ連と同組になった。

いまのところ、各国ともメンバーを公表していないため、戦力診断はできないが、日本はソ連戦の1敗はまぬがれまい。

役員団としては、ブラジル、コンゴ戦を確実にとって、準決勝リーグ進出を目指している。

ブラジルはユース、ジュニアがしきりと西ドイツ、フランスを転戦しており、かなりの実力があるとも伝えられる。

なお、日程は12月28、29、30日が予選リーグ、1月1、2日が準決勝リーグ、4日が順位決定戦になる模様である。

全日本学生候補
名古屋で強化合宿

全日本学連は第8回世界学生選手権の代表チームの選考を急いでいるが、このほど11月6日から9日、21日から24日までの2回、いずれも名古屋で最終候補選手の強化合宿を行うことを明らかにした。

代表選手15名は、早ければ11月20日ごろ発表される。

なお、役員団は団長に中沢重夫氏(全日本学連理事長)、監督に藤原侑氏(全日本学連競技委員長)、コーチに大西武三氏(同競技委員)が決定している。

このほか、日本協会強化部から平岡秀雄、木野実両コーチが選手団に帯同、ヨーロッパ各国の若手群の動向をチェックすることが決まっているが、木野コーチの帯同は、世界ジュニア選手権とのからみで、正式決定していない。

代表選手団は、フランス入りの前、フィンランド、西ドイツ転戦を交渉中。

栃の葉クらの出場決まる

全日本総合選手権（12月 東京）

今年度のナショナルチャンピオンチームを決める第32回全日本総合選手権は、12月16日から20日まで東京体育館で行われるが、日本協会はこの大会に参加資格のある男子24チーム、女子16チームのうち、日本リーグ、加盟団体（全国連盟）から推せんされたチーム名を次のとおり明らかにした。（10月31日現在）

〈男子〉▽日本リーグ推せん　大同特殊鋼(愛知)、湧永薬品(広島)、本田技研鈴鹿(三重)、日新製鋼（広島)、大阪イーグルス（大阪)、三陽商会(東京)、大崎電気(埼玉)、三景(東京)。

▽全日本実業団連盟推せん　日鉄建材(大阪)、東京重機(東京)、新日鉄大分(大分)。

▽全日本教職員連盟推せん　栃の葉ク(栃木)、千葉教員(千葉)、スワロー兵庫(兵庫)。

▽全日本自衛隊連盟推せん　自衛隊勝田(茨城)。

〈女子〉▽日本リーグ推せん　ジャスコ(三重)、日本ビクター（茨城)、ブラザー工業（愛知)、日立栃木(栃木)、立石電機(熊本)、大崎電気(埼玉)、北国銀行(石川)、東京重機(東京)。

▽全日本実業団連盟推せん　大和銀行(大阪)、ムネカタ(福島)、和歌山県商工信用組合(和歌山)。

また、日本協会では女子の全国社会人代表に彦根BSク（滋賀）の推せんを決めた。

同代表には、桐花ク(岩手)、全和洋(秋田)、大分東シニア(大分)神埼ク(佐賀)らが候補にあげられたが、栃木国体での試合ぶり、7月の第5回全国クラブ大会優勝、次年度国体開催地などの理由から彦根BSクが推されたもの。

組み合せの決定は11月15日日本協会で行われる予定。

トヨタ車体など繰上げか

全日本実連は、第32回全日本総合選手権（東京）の男子実連代表を、別掲のとおり発表したが、東京重機(東京)、新日鉄大分(大分)に辞退の可能性があるため、その場合は、トヨタ車体（愛知）と中村荷役運輸（東京）を推せんする予定である。

トヨタ車体は、今春2月の第1回全国実業団トーナメント3位、中村荷役運輸は今春発足の新チームだが、戦力的に推せんし得るというもの。



この看板のお店でご相談ください。

滋養強壮・虚弱体質に

●にんにく抽出エキス・ビタミンB_1・肝臓分解エキス・ビタミンB_{12}製剤

キヨーレオピン

●朝鮮人参・麝香・牛黄・ビタミンB_1・にんにく抽出エキス製剤

レオピンファイブ

週に一度はスポーツを



健康づくりは毎日の快眠・快食から……
それに適度なスポーツも欠かせません。
私達は皆様の健康を願って
薬品づくりに努めます。

湧永薬品株式会社

ワクナガ 本社 〒553 大阪市福島区福島3丁目1番39号 TEL.(06)458-8901
中央研究所 広島工場 〒729-64 広島県高田郡甲田町大字下甲立1624 TEL.(082645)2331

テーマは「人間と機械」

「機械にできることは機械にまかせ、人間はより創造的な分野での活動を楽しむべきである」……
これが立石電機のモットーです。


技術の原点オートメーション機能部品


産業用無人化システム


都市の交通制御システム


鉄道の駅務自動化システム


銀行の窓口省力化システム


ガソリン・スタンドのPOSシステム


オフィスのコンピュータ・システム

小売店頭の電子レジスター




立石電機

立石電機株式会社／本社
〒616 京都市右京区花園土堂町10
TEL 075(463)1161大代

「日本協会競技・審判コース」決まる

12月21日東京　IHFからエリアス氏招く

日本協会は10月25日の常務理事会（東京）で、12月21日東京渋谷の岸記念体育会館地下大講堂で、IHF（国際ハンドボール連盟）規則審判委員会の主力メンバー、エリック・エリアス氏（スウェーデン）を招き、初の「日本協会競技・審判」（仮称）の開催を決めた。

この企画は、本誌既報のとおり当初は、IHF規則審判委員長カール・ワン氏（ノルウェー）を招いて実施される予定だったが、その後の交渉で、ワン氏が、同時期クウェートの講習会に出張することが分かり、ワン氏の推せんもあって、エリアス氏を講師として招くことになったもの。

エリアス氏は、永くスウェーデン協会のレフェリー・ソサイエティの委員長をつとめ、またスウェーデン協会の副会長でもあった。

IHFのスタッフとなってからは、いくつかの公式国際レフェリーコースの指導や、開催を手がけ各国トレナーとの協力関係にも通じている。

日本協会は、12月13日から20日まで東京体育館で行なう第32回全日本総合選手権をエリアス氏にみせ、レフェリー指導をしてもらうほか、21日にはアジア諸国からレフェリーを集め、指導講習会を開くことにしている。

すでに、アジア各国（AHF加盟国）には、日本協会から案内状が送付された。

国内の参加者規程は、審判部によって作成中である。

この企画が実現されれば、来年8月1日から実施されるルール改正の説明を充分に得ることができるので、日本だけでなくアジア地域にとっても有意義な講習会となろう。

〈注〉IHF「競技規則・審判委員会」（PRC）は、IHF内に置かれる五つの専門委員会の一つ競技規則の研究と制定、国際公認レフェリーの養成と認定を主業務にしている。

メンバーは、カール・ワン氏（ノルウェー）を委員長に、来日するエリク・エリアス氏（スウェーデン）をはじめ、J・グリンベルガス（ソ連）、T・キールホルン（オランダ）、K・シューフ（東ドイツ）、W・ヴィック（西ドイツ）の5氏が委員として活動。

11月末に財団法人認可か

5月末を目標にし準備を進めながら、延びのびとなっている日本協会の財団法人化は、その後、荒川理事長、大野総務担当常務理事らが文部省と折しょうをつづけているが、早ければ11月末までに認可がおりる見通しとなった。

すでに日本協会では、設立時の理事20氏を委嘱し、認可即日「財団法人・日本ハンドボール協会」に移管する手はずをととのえている。

設立時の理事の任期は来春3月末までだが、2月中旬、法人第一期の理事改選が行われる予定。

「名古屋五輪」立候補

注目の名古屋オリンピック（一九八八年）は、名古屋市などが示した当初の財政規模を大幅に縮少し立候補する。

これは、日本政府が10月17日の関係閣僚会議で、規模縮少と経費節減の条件付きで、立候補を認める方針を決めたことによる。

JOC（日本オリンピック委）は、すでに名古屋市の立候補を承諾しており、政府の決定で、いちだんと名古屋オリンピック招致ははずみがつくものと思われる。

今後の予定は、11月中旬にJOCを通じ、IOC（国際オリンピック委）へ立候補届けが出されるが、11月30日の〆切日までに、名古屋市のほか、メルボルン市（オーストラリア）の名乗りあげが確実といわれる。

開催都市の決定は、来年10月、バーデンバーデン（西ドイツ）で開かれるIOC総会の投票で決まる

なお、名古屋オリンピックではハンドボールも実施される予定ですでに競技会場として本誌既報のとおり、名古屋市総合体育館（新設）と鈴鹿市（三重）体育館または四日市（三重）中央緑地公園体育館が候補にあげられている。

日本協会・荒川理事長は「11月中旬に、名古屋市オリンピック関係者と初会合をもてるだろう」といっており、ハンドボール界の名古屋オリンピックに向けての路線も、急速に動き出しそうである。

11月に「世界選抜軍」が2試合

近着の「IHF広報」（第132号）は、11月下旬、2年ぶりでIHF（国際ハンドボール連盟）による「世界男子選抜軍」が編成され、23日西ドイツ、26日スウェーデンで各1試合を行う、と報じた。

西ドイツでの第1戦は、昨年3月、試合中に頭部を強打、選手生命を奪われたJ・デッカルムのための慈善試合で、デッカルムの所属クラブ「VfL・グンメルスバッハ」が対戦する。スウェーデンでの第2戦は、同国協会創立50周年記念試合で、同国ナショナルが相手。

メンバーは、IOCのCCM（コーチ・技術委）によってモスクワ・オリンピック出場選手のなかから、次の15名が選考された。優勝国東ドイツは自国の遠征が重なり選手を出していない。

▽監督、I・クンスト（ルーマニア、CCM委員長）▽GKイチエンコ（ソ連、190cm）、バータロス（ハンガリー、182）、パゴアーガ（スペイン、181）▽FPスティンガルーマニア、188）、ボワナ（同、186）、ツーリング（スイス、184）、フーバー（同、177）、カルジンスキー（ポーランド、190）、クレムペル（同、192）、コントラ（ハンガリー、186）、コバクス（同、197）、F・ロペス（スペイン、179）、G・ロペス（同、178）、ユリナ（ユーゴ、193）、クラフゾフ（ソ連、176）。

GKのパゴアーガは、50年バロンマノ・グラノリエルス（スペイン）の一員として来日したことがある。

日本協会専門委員会だより

国際

IHF（国際ハンドボール連盟）とAHF（アジアハンドボール連盟）から、今年開かれた総会の内容を報せる文書が届いたので、主要点をお伝えしておこう。

（IHF総会・8月モスクワ）

総会で承認される新加盟国は、理事会の提案にしたがい、アンゴラ、チリ、中国、ガボン、リヒテンシュタインの5カ国がまず決まり、パレスチナは規約を改正したうえで同国を認めるというクウェートの提案を38—13で可決、パレスチナはIHF正式加盟国となった。

IHFはこれで80の正式加盟国とこの仮加盟国（オーストラリア、アイルランド）がメンバーとなる。

役員の改選については、すでに本誌188号で報じられているが注目のCOC（大会組織委）、PRC（規則、審判委）、CCM（コーチ・技術委）、MC（医専委）、CPD（広報・普及委）の5委員会22名のスタッフも明らかにされた。

今回も委員の選出はヨーロッパが圧倒的で、他大陸から選ばれたのは、CPDのS・ブーアムラ氏（アルジェリア）ただ一人である。

（AHF総会・4月ホンコン）

注目される議題としては、女子とジュニア選手権の件があった。

意見の多くは、両選手権の意義を認めながらも、まず男子の普及とレベルアップに全力をつくすべきだという現情論が強く、女子、ジュニアについての具体的な決定は、みなかった。クウェート代表は、ジュニアの大会を2年に1回開くべきだ、と重ねて主張した。

行事では、イラク代表が、コーチ・レフェリー講習会を要望クウェート協会に開催意思のあることが明きらかにされた（時日は未定）

また、八二年の第9回アジア競技大会（インド・デーリー市）でハンドボールが実施されるよう働きかける努力を、AHFは引きつづき行うことが確認されたが、実現のためにはハンドボールをアウトドアーで行うことも一つの条件であることが、アブル副会長によって明きらかにされた。

なお、この総会で役員改選が行われたのは既報のとおりである。

また、イラクが第3回アジア選手権（男子のみ）の開催を申し出たことに、各代表から感謝の意が表された。

（境井）

編集

ひごろ、本誌の刊行に全国各位から多大な協力をうけ、感謝しています

協会活動の伝達誌として、今後も充実した報道と解説をと心がけていますが、今号では三つのお願いをいたします。

一つは、かつて数回お報せしたことではありますが、日本協会では「日本ハンドボール史」の編さんを近く本格化します。

つきましては、資料の不足している左記の三点に、ご協力下さい。

①大正11年から昭和12年までの日本におけるハンドボール活動を伝える文献、写真及び、体験者、当事者の紹介

②昭和13年から19年までのハンドボール記録、地方活動記録及び文献、写真。

③昭和21年から29年までのハンドボールに関する文献、写真

以上にお心あたりのかたは、ぜひ、編集委員会あて御一報あるいは資料をご貸与下さい。

第二は、海外通信網の整備を企りたいと思います。

いまやハンドボールは、世界の百カ国近くで行われています

また、日本人の海外進出も目ざましく、そのなかには、当然高校時代、学生時代にハンドボールをプレーしたOB、OGもおられるものと思います。

そのかたたちから、在留地のハンドボール・リポートが寄せられたら、どれほど楽しいでしょうか

こうしたかたたちをご存知の読者がおりましたら、ご紹介下さい

ご当人との連絡は本誌側が行いますので、氏名と外国現住所をお知らせ下さるだけで結構です。

最後に、ハンドボールのコレクターが増えていると聞きます。

各大会のプログラム、ポスターあるいは新聞スクラップなどの交換を望む声も高まっています。

本誌上を使って、そのような交換ができるならと思いますので、ご希望のかたは、はがきでご一報下さい。

なお、本誌のバックナンバーへのお問合せも多いのですが、創刊号以来、一部の欠号を除き少々の時間をいただければ、かなりの号をお送りすることができます。費用は発売時定価に送料を加えさせていただきます。ご希望の号数をはがきでお申しこみ下さい。

また、今後とも各欄への原稿提供、投稿をお願いいたします。

日本協会専門委員会だより

日立栃木（成年女子）がフィナーレ飾る

第35回国民体育大会・栃の葉国体は最終日，地元・日立栃木（成年女子）が大観衆のなかで優勝を決めるという劇的なフィナーレで幕を閉じた。

大会は10月12日総合開会式のあと，ハンドボール競技は13日から17日まで栃木市の栃木市総合体育館，国学院栃木球技場などに全国46都道府県から4部門79チームが参加して行われ，成年男子は愛知，同女子と少年男子は栃木が30年ぶり，少年女子は石川が優勝した。注目の天皇皇后両杯は地元栃木県が手にした。開催県の両杯獲得は5年ぶり5度目。

少年男子も栃木・栃の葉国体終わる

成年女子（46チーム）

▽1回戦

広島（HFG）	14	7−4、7−5	9	福井（全福井）
宮崎（宮崎ク）	21	11−4、10−9	13	徳島（池田ク）
北海道（室蘭OG）	23	14−2、9−7	9	鳥取（米子ク）
長野（小諸商ク）	15	6−4、9−2	6	沖縄（興南OG）
山梨（日川ク）	20	9−2、11−6	8	山口（徳山ク）
奈良（生駒ク）	20	11−6、9−9	15	香川（高松南ク）
静岡（ポスト・ク）	13	5−6、4−3：2−0、2−1	10	長崎（長崎ク）
山形（米沢女高OG）	15	6−5、9−2	7	島根（松江ク）
大分（大分東シニア）	19	12−8、7−7	15	千葉（千葉ク）
富山（全富山）	22	11−6、11−8	14	青森（全青森）
群馬（日本光電ク）	20	10−5、10−5	10	高知（高知ク）
福岡（福岡ク）	20	11−3、9−7	10	愛媛（松山ク）
兵庫（選抜）	15	6−8、9−3	11	新潟（江南OG）
神奈川（全神奈川）	15	9−6、6−4	10	京都（京都ク）

○…比較的実力が均こうして接戦の多い初日だった。

なかでも静岡×長崎は、後半15分7−7から長崎が中村の連続ゴールで9−7とし勝負を決めたかにみえたが、静岡は残り3分同点延長にもつれこんだ。延長後は、静岡がGK渡辺の巧守を軸に、元気さで上廻り、大石、阿部の活躍もあって勝利を握った。

静岡は主婦の多いクラブチームコートサイドの話題を集めた。

神奈川×京都も好試合。神奈川が速攻とサイド攻撃で先手をとり後半10分12−6としたが、京都も粘り18分9−13。なお一波乱が予想されたが、神奈川は22分藤井がダメを押した。神奈川GKにモントリオール代表の和田が元気な姿をみせた。

兵庫×新潟は、新潟が後半15分11−9と先行していたが、兵庫はこのあとプレス気味の守りから一気に逆襲のチャンスをつかみ、馬場のゴールを口火に、あっという間に5得点、終了間ぎわ酒井が決めて新潟を突き放した。

広島×福井は後半5分8−6と予断を許さなかったが、広島は田中の好シュートなどで11分12−6大勢を決めた。

大分×千葉は劣勢の千葉が後半になって粘り、18分15−16と追いこんだが、大分は20分斉藤のゴールで落ちつき、終了近く2点を加えて勝った。

大分、和歌山に完勝

▽2回戦

茨城（日本ビクター）	30	16−3、14−6	9	広島
秋田（全和洋）	21	9−8、12−10	18	岐阜（選抜）
福島（ムネカタ）	25	15−4、10−2	6	宮崎
東京（東京重機）	29	12−1、17−5	6	北海道
石川（北国銀行）	21	8−2、13−1	3	長野
大阪（大和銀行）	27	13−3、14−4	7	山梨
岩手（桐花ク）	17	10−5、7−4	9	奈良
栃木（日立栃木）	35	16−1、19−2	3	静岡
愛知（プラザ工業）	46	23−2、23−1	3	山形
滋賀（彦根BS・ク）	21	8−8、13−8	16	富山
大分	28	15−2、13−7	9	和歌山（和歌山県商工信用組合）
熊本（立石電機）	36	23−3、13−1	4	群馬
埼玉（大崎電気）	24	13−5、11−3	8	福岡
兵庫	18	10−7、8−6	13	岡山（倉敷天城OG）
佐賀（神埼ク）	20	7−3、13−0	3	宮城（全宮城）
三重（ジャスコ）	34	17−2、17−5	7	神奈川

○…秋田×岐阜がもつれた。前半の秋田は好調にとばし、横山の活躍などで15分7−4、しかし岐阜もよく反撃、後半開始早々、加藤の2ゴールで10−9と逆転した。

一進一退から再び秋田がペースを握り16分17−13と優位に立ったのだが、岐阜も都竹の3ゴール（PT2）で16−17、残り5分に勝負がかかった。

しかし、僅かに余裕のある秋田は21分から高橋の巧技などで相手守備陣を攻めくずしケリをつけた。

大分が日本リーグ2部の和歌山を大破した。

和歌山は大分の強いディフェンスに手を焼き18分間ノーゴール、一方、大分は菅本、宮田を中心に多彩な攻めであっという間に12点をあげ、あっさり勝負を決めてしまった。

滋賀×富山は残り5分16−16という激戦でコートサイドをわかせたが、富山はここでエースの辰野が手痛い追場、滋賀はすかさず今井、藤本、伊豆川とたたみかけ、富山の反撃意欲をそいだ。

兵庫×岡山は後半6分10−9から兵庫は魚谷、佐藤らで連続6ゴール、主導権を握った。

岩手×奈良は前半18分岩手が9

―2と大差をつけ早々と勝利を決定づけた。

クラブ勢期待の佐賀（神埼ク）は、評判どおりのまとまりをみせ宮城に大勝、特に後半の攻守はみごとなものがあった。

日本リーグ勢をもつ各県は順当勝ち、なかでも愛知は山形に連続27ゴール（前半9分28秒〜後半13分）という快記録で圧勝した。

佐賀、三重に食いつく

▽3回戦

茨城	24	（13—4、11—4）	8	秋田
福島	24	（11—7、13—5）	12	東京
大阪	10	（4—3、6—3）	6	石川
栃木	26	（11—3、15—2）	5	岩手
愛知	26	（16—3、10—11）	14	大分
熊本	25	（10—2、15—3）	5	滋賀
埼玉	30	（15—2、15—8）	10	兵庫
三重	22	（9—6、13—3）	9	佐賀

○…佐賀、大分両クラブの試合ぶりに注目が集った。

佐賀は、三重のミスもあったが実松（栄）の好リードから10分2—5、15分5—7と食いつき、20分実松（栄）のゴールで6—7と迫る健闘だった。

しかし、三重は直後のPT（林）を決めてから本来の調子に戻り、山本（二）の好プレーで徐々にリード、後半15分16—7として大勢を決めた。

愛知×大分は、さすがの大分のまとまりとスピードも愛知には通ぜず、立ち上りからいきなり14点を奪われてしまった。

それ大も大分は試合を捨てず、後半は、矢田、斉藤らで、むしろ押し気味。好印象を残した。

日本リーグ1、2部の対戦となった福島×東京、大阪×石川は、2部勢に軍配が上がった。

特に福島（ムネカタ）の攻撃は目をみはらされるものがあり、東京（東京重機工業）は、後半10分9—16と開かれてギブアップ。

大阪（大和銀行）も、石川（北国銀行）に力勝ちした。石川は前半PTだけの得点に終るなど攻撃リズムがととのわず、後半は8分4—5から、3点を失って大阪にペースを握られた。

大阪はそのあとも巧みに加点、20分10—5として貴重な勝利をあげた。

石川の敗退は、皇后杯3連勝の史上タイを狙った同県に手痛かろう。

岩手（桐花ク）、兵庫（選抜）、滋賀（彦根BSク）、秋田（全和洋）らは、なんとか一矢をと粘ったが岩手が立上り38秒松田で先取点を奪った以外は、各チームとも一方的に攻めまくられ、リードする場面もないままに退けられた。

―天皇杯・皇后杯得点優勝都道府県―

～両杯制定は第3回から～

	天皇杯	皇后杯
・昭23（第3回）	大阪	大阪
24	大阪	岡山
25	大阪	大阪・岡山
26	岡山	岡山
27	愛知	愛知
28	大阪・北海道	北海道
29	大阪	大阪
30	愛知	福岡
31	愛知	福岡
32	愛知	愛知
33	大阪	茨城
34	大阪	宮城・福岡
35	愛知	愛知
36	東京	愛知・茨城
37	愛知	熊本
38	○山口	○山口
39	○新潟	東京
40	○岐阜	熊本
41	大阪	・熊本
42	○埼玉	○埼玉
43	熊本	熊本
44	○長崎・埼玉	熊本
45	大阪	大阪
46	○和歌山	秋田・熊本
47	○鹿児島	熊本
48	○千葉	○千葉
49	大阪	○茨城
50	○三重	○三重・石川
51	○佐賀	熊本
52	愛知	熊本
53	○長野	石川
54	愛知	石川
55	○栃木	○栃木

・○印は開催県

熊本、愛知に逆転勝ち

▽準々決勝

茨城 27（18—2、9—7）9 福島

【福島】	得		【茨城】	得
岩瀬	0	GK	渡辺	0
海村	0	GK	長岡	0
広田	3	FP	染谷	5
岡部	2	FP	伊藤	5
清水	0	FP	志村	4
石田	1	FP	小島	9
物井	1	FP	池田	3
水野	2	FP	加藤	1
吉田	0	FP	岩城	0
大河原	0	FP	村上	0
米野	0	FP	中根	0
落合	0	FP	大熊	0
9	（2）	PT	（6）	27

（審・栗城、三枝）

○…走力が試合の決め手になった。特にディフェンス面で茨城の動きは鋭く、福島は、ほとんどつけこめずに終った。茨城は前半10分すぎから連続11点して楽勝。（沢井）

栃木 22（14—2、8—5）7 大阪

【大阪】	得		【栃木】	得
丸山	0	GK	寺沢	0
松本	0	GK	斉藤	0
宮本	2	FP	吉田	3
若杉	0	FP	島田	6
千原	1	FP	大輪	2
米山	2	FP	水上	2
西田	0	FP	毛塚	3
鈴木	0	FP	手打	2
中川	0	FP	山戸	0
東木	0	FP	箕輪	0
門	0	FP	小根沢	0
山木	2	FP	前田	4
7	（2）	PT	（3）	22

（審・横瀬、矢沢）

○…上昇気運の大阪も、地元栃木の気力の前には、一たまりもなかった。大阪は相手の得点源、島田に密着マークをつけるなどしたが、栃木は大輪の速攻、水上、毛塚のパワー攻撃で20分11—1、思わぬ凡戦に終った。（栗城）

熊本 13（4—6、9—5）11 愛知

【愛知】	得		【熊本】	得
屋比久	0	GK	井村	0
中村	0	GK	荒木	0
竹内	2	FP	姫野	2
則武	1	FP	桑原	1
増永	2	FP	紀野	5
植田	3	FP	薮田	2
山村	3	FP	羽立	2
松下	0	FP	喜久山	1
宮本	0	FP	山下	0
塩谷	0	FP	是枝	0
小平	0	FP	近藤	0
尾崎	0	FP		
11	（1）	PT	（3）	13

（審・島田、後藤）

○…手の内を知りつくした同士らしい展開から愛知が後半10分9—7から植田の連続得点で4点差とした時は勝負あったとみえたが熊本はそのあと二本のPTを得て息を吹き返し、23分紀野で同点、24分喜久山で逆転という鮮かな粘りをみせた。同じパターンで日本リーグでの対戦を失っている愛知は1点差に迫られたあたりから焦りがのぞき、勝てる試合を逃した（浜野）

三重 20（12—7、8—7）14 埼玉

【埼玉】	得		【三重】	得
藤村	0	GK	矢部	0
梅野	0	GK	山本一	0
西	8	FP	平田	0
陽田	1	FP	松下	3
渡部	0	FP	山本二	5
穂渕	0	FP	横山	1
江島	5	FP	若田	4
嘉本	0	FP	辻本	5
根間	0	FP	林	1
石井	0	FP	宮崎	0
宮嶋	0	FP	今里	1
西嶋	0	FP	岩林	0
14	（2）	PT	（0）	20

（審・森、勝山）

○…埼玉にとっては前半の拙攻が惜しまれる。再三いい形になりながら全員の動きに切れがなく、一方の三重は立ち上り、山本（一）

の連続4ゴールなどで主導権を握り、終始余裕をもった滑らかな動きだった。

後半、埼玉は西の好シュートなどで10分12－15まで詰めたが及ばなかった。（斉藤）

栃木、茨城を破る波乱

▽準決勝

栃　木　9（4－4、5－2）6　茨　城

【茨城】		得
GK	渡　辺	0
FP	染　谷	1
	伊　藤	0
	志　村	0
	小　島	4
	池　田	0
	加　藤	1
	岩　城	0
	村　上	0
	中　根	0
	大　熊	0

【栃木】		得
GK	寺　沢	0
	斉　藤	0
FP	吉　田	0
	島　田	6
	大　輪	0
	水　上	2
	毛　塚	1
	手　打	0
	山　戸	0
	箕　輪	0
	小根沢	0
	前　田	0

（審・三枝・栗城）

9（2）PT（2）6

○…栃木の緊張をついて5分2－0とした茨城の攻撃は、さすがベテラン揃いと思わせたが、そのあとの攻撃があまりにも単調、しかも栃木GK寺沢がすばらしいデキで点がとれない。

この間に栃木は緊張がほぐれ、プレーにスピードが乗り始めた。こうなればホームコートでもあり栃木が押せ押せムードだ。

20分4－2としたリードは、すぐ追いつかれたが、後半8分までに水上の思い切りよいプレーが得点機を開き8分7－4、相手の切り札・加藤に密着した手打の〝香戦〟もあって完全に栃木ペース。15分7－6のピンチも、そのあとの二木のPTを島田が決めて、栃木は、最大難関とみられた茨城を打ち破った。（杉山）

熊　本　15（5－4、10－8）12　三　重

【三重】		得
GK	矢　部	0
	山本一	0
FP	平　田	0
	松　下	1
	山本二	1
	横　山	3
	若　田	1
	林	1
	辻　本	5
	若　林	0
	今　里	0
	宮　崎	0

【熊本】		得
GK	井　村	0
	荒　木	0
FP	姫　野	2
	桑　原	2
	紀　野	9
	薮　田	1
	羽　立	0
	喜久山	1
	近　藤	0
	山　下	0
	是　枝	0

（審・島田・後藤）

15（6）PT（3）12

○…スリリングな試合だった。前半先行した熊本が、後半4本のPTを活かし15分12－8とした時は勝負のメドがついたと思われたが、三重は横山の連続ゴールで気をとり直し、さらに2点を加えてわずか3分間で12－12のタイとした。勢いにのる三重は、ここでさらにPTを得るのだが、シューターの決定にやや手間どり、しかも失敗、熊本に一息つかせてしまった。

残り2分を割って熊本に美技が出た。

三重のミスを拾った紀野が絶妙なパスを姫野に送って23分20秒13－12、20秒後まったく同じプレーが繰り返され14－12。紀野も巧かったが、受けた姫野のすばらしい走りとハンドリングも大きな勝因である。（杉山）

▽3位決定戦

三　重　23（11－5、12－7）12　茨　城

○…三重の若さにあふれる速い攻撃が、前日の敗戦で、いつもの元気がない茨城を押し切った。

ペースは4分4－0とした三重が終始握りつづけ20分8－4と優位をキープ。茨城は強引なプレーが目立ち、かえって三重に攻撃のきっかけを与えてしまったのは、巧者揃いらしくなかった。（後藤）

熊本、再三の粘り実らず

▽決勝

栃　木　15（6－6、9－7）13　熊　本

【熊本】		得
GK	井　村	0
	荒　木	0
FP	姫　野	3
	桑　原	4
	薮　田	3
	羽　立	0
	紀　野	3
	是　枝	0
	山　下	0
	喜久山	0
	近　藤	0

【栃木】		得
GK	寺　沢	0
	斉　藤	0
FP	島　田	4
	大　輪	1
	吉　田	2
	水　上	3
	手　打	2
	毛　塚	3
	小根沢	0
	箕　輪	0
	前　田	0
	山　戸	0

（審・佐分・大塚）

15（2）PT（2）13

○…フロアまで埋めた栃木（日立栃木）の大応援団。

立ち上り両チームともかなり動きが固く、熊本（立石電機）が4分2点アヘッドしたが、栃木も立てつづけに4ゴールして逆転、そのあと熊本も追いこんで16分4－5からPTで同点、さらに19分姫野で再逆転した。栃木も23分水上でタイとして、期待どおりの伯仲から、勝負は後半に持ちこまれた。

後半の先手はまたも熊本。しかし、栃木は5分、10分のPTを島田が射ちこんだあと、すっかり緊張がとけ、12分水上の好プレーで9－7と主導権を握りかけた。

そうはさせじとする熊本は13分のPTでピタリと食いついたが、栃木は17分水上、18分毛塚でこの試合初めて3点差をつけた。

粘る熊本は1分後、薮田、姫野で12－13と栃木を苦しめたが、栃木は焦ることなく22分島田、24分大歓声のなかで手打が優勝を決めるダメ押し点をあげ、熊本の粘りを断ち切った。

大観衆に囲れ、熱気にあふれた好試合であった。（北井）

◆天皇杯（男女総合）得点①栃木16②愛知11・5③広島9④大阪8⑤石川、埼玉、熊本6・5⑧福島、富山2・5

◆皇后杯（女子総合）得点①栃木14・5②熊本10③石川9・5④愛知9⑤広島7⑥三重6⑦茨城5⑧福島、埼玉、神奈川、大阪、兵庫、愛媛1・5

○…天皇杯はかなり早い時点で栃木の一位が決まったが、皇后杯は大接戦だった。栃木としては少年の敗退が誤算で、そのマイナスを一気に吹きとばしたのが成年の優勝。大敵茨城を準決勝で破った気力が栄冠を手繰り寄せた。3連勝を狙った石川は成年が3回戦で姿を消したのが痛い。

愛知、ついに8連勝

成年男子 （11チーム）

▽1回戦

宮崎（全宮崎） 26（1016—1510）25 北海道（函館有斗ク）

埼玉（大崎電気） 34（2014—1212）24 秋田（湯沢HC）

千葉（千葉教員） 26（1115—1410）24 富山（全富山）

▽準々決勝

愛知（大同特殊鋼） 34（1717—9 7）16 宮崎

栃木（栃の葉ク） 42（1824—8 5）18 香川（讃岐ク）

大阪（大阪イーグルス） 29（1613—119）20 埼玉

広島（湧永薬品） 38（1919—9 3）12 千葉

○…1回戦3試合はいずれも大乱戦になった。

宮崎×北海道は、宮崎が後半2分17—11とし、そのままのペースで進むかとみえたが、北海道は佐藤の攻撃力を活かし点差を詰め、12分17—19と追いあげた。

このあたりから、すさまじいばかりの点の取り合いとなり、北海道は、ついに23分23—23とタイにした。

残り3分、先手は宮崎がとったが、北海道は27分同点、28分30秒木村の勝ちこしシュートで25—24勝利に一歩近づいた。ところが宮崎は29分船木同点のあと、残り30秒インターセプトから石原口が劇的な逆転シュートを叩きこみ激戦にケリをつけた。

埼玉×秋田は、両チームとも組織プレーを忘れた個人の突進力で得点をとりあった。

後半、埼玉（大崎電気）は、さすがに実業団らしく、チームプレーがまとまり始めサイド、ポストを攻めわけて15分24—15、どうにか主導権を手にした。

千葉×富山は6点差をつけた千葉の楽勝かと思わせたが、富山は後半2分から反撃に転じ10分14—16、12分同点というみごとな追いあげを示した。

勢いにのる富山は、さらに16分堂尻、18分光安で逆に先行を果たしたが、千葉も持ちなおして22分22—22。

勝負は残り5分間にかかったが千葉は28分24—24から山下、佐藤がとどめのゴールを奪って辛勝した。

準々決勝は、勝者4チームの圧倒ぶりが目立った。

もつれるかと思われた大阪（大阪イーグルス）×埼玉は、埼玉がリードを奪う場面もあったが、前半20分を過ぎるあたりから、大阪がGK本田の好守で相手の得点を阻む一方、辻木、源野らがシャープなシュートを連発、後半7分17—11と主導権、その後も巧く試合を運んで勝ちあがった。

注目の栃木は、香川を相手に猛攻をみせ、いきなり9—0（9分）白井、原田、前田らでなんとか粘ろうとする相手をねじ伏せた。

栃木、愛知には及ばず

▽準決勝

愛知 27（1611—9 8）17 栃木

【愛知】	得		【栃木】	得
柳川兄	0	GK	高橋	0
山本	0	GK	岩下	0
中井	6	FP	川田	2
柳川弟	1	FP	中山	4
大原	5	FP	越前	1
中本	2	FP	滝口	4
蒲生	11	FP	松井	6
小野	1	FP	名嘉	0
松原	0	FP	河先	0
花輪	1	FP	山本	0
藤中	0	FP	小西	0
			斉藤	0
27（2）		PT	（2）17	

（審・千野、斉藤）

○…栃木は健闘したものの、やはり〝国際チーム〟大同の愛知の総合力には一歩も二歩も譲った。

栃木は元気よく飛び出した。前半20分6—4のリードは、地元ファンの期待に応えるに充分だったし、後半6分12—13と迫った場面も、そのチーム力の高さを思わせた。

しかし、愛知の動きにはつねに余裕があり、特に13—12のあと中井、花輪、大原、蒲生らで5点を奪った攻撃は、貫禄を感じさせた。

栃木は、せっかく1点差と詰め寄りながら、突き放されたため、一気に疲れが出た感じで、あとは松井の個人技で、散発的にポイントをあげるにとどまった。（杉山）

広島 30（1416—5 6）11 大阪

【広島】	得		【大阪】	得
大城	0	GK	信貴	0
福井	0	GK	本田	0
津川	4	FP	高橋	0
穂積	5	FP	源野	3
志賀	1	FP	足羽	0
戸田	4	FP	大西	0
山本	5	FP	福井	2
池ノ上	5	FP	辻本	3
藤本	1	FP	河原崎	0
松本	4	FP	千野	0
内田	1	FP	三谷	1
生駒	0	FP	勝本	2
30（1）		PT	（1）11	

（審・上久保、北井）

○…大阪は前半10分3—4まで競り合っていたが、そのあと広島の攻撃を一方的に受けて20分11—3とされると、日ごろのひたむきなプレーがなくなり、そのままずるずると敗れてしまった。（杉山）

▽3位決定戦

栃木 26（1313—9 11）20 大阪

○…8月の全日本教職員選手権で決勝を争った両チーム。

個々のシュート力で勝る栃木が先手をとっていたが、チーム力で対抗する大阪は、相手の得点源・松井、中山をマンツー・マンでマークし、この策が成功して、中盤いちどは逆転した。

しかし、若さとシュート力のある栃木は、しだいに走りで大阪を圧倒、残り6分からの連続6ゴールで13—11、後半に入っても、力強い攻撃はおとろえず、10分16—14からの連続5ゴールで勝負を決めた。（北井）

▽決勝

愛知 16（9 7—9 6）15 広島

【愛知】	得		【広島】	得
柳川兄	0	GK	福井	0
山本	0	GK	大城	0
中井	4	FP	津川	0
蒲生	9	FP	穂積	4
大原	1	FP	志賀	0
柳川弟	0	FP	戸田	2
中本	1	FP	山本	1
小野	0	FP	池ノ上	5
松原	0	FP	松本	3
花輪	1	FP	内田	0
藤中	0	FP	藤本	0
			志賀	0
16（3）		PT	（3）15	

（審・斉藤、千野）

○…いつも接戦の両者。この試合では、広島（湧永薬品）が8—9、9—9、9—10、10—10と追いあげ追いついた後半5分からの約5分間にヤマ場があった。

愛知（大同特殊鋼）は、ここで当然、蒲生にボールを集中してくる。

ゴール正面願ってもないフリースローから鮮やかな打ちおろしで11—10としたのは、後半8分40秒だ。

愛知は、この機を逃すことなく一気の攻めこみで二本のPT、蒲生があっさり決めて13分12—10と開く。

広島は13分松本が1点を返したが、そのあと11分間無得点、愛知は21分大原、22分蒲生で15—11、ここで愛知の8連勝が決定(杉山)

氷見高（富山）の4連覇成らず

少年男子（11チーム）

▽1回戦

富山（氷見高）24（10—10 9—9 延長 1—3 4—1）23 愛知（選抜）

大阪（大阪高校選抜）29（16—6 13—5）11 北海道（選抜）

沖縄（高校選抜）34（20—4 14—15）19 愛媛（新居浜工高）

○…富山×愛知は、残り10分15—17から愛知が酒巻（愛知高）の3点連取で逆転、富山も粘り22分同点のあと23分40秒のPTで19—18勝利を決めたかとみえたが、愛知は残り45秒19—19として延長に入った。延長後は、愛知が押し気味で残り4分23—21としたが、富山は単独のまとまりを存分に発揮桜打の大活躍で残り2分23—23、タイムアップ寸前、三たび桜打がポストから絶妙のシュートを決め激戦をモノにした。

あとの二試合は予想以上に力の差がのぞき、特に沖縄が前半にみせた猛攻は、すざましいものがあった。

富山、山口、沖縄が逆転勝ち

▽準々決勝

富山 35（16—17 19—7）24 福岡（小倉西高）

山口（高校選抜）24（8—11 16—6）17 埼玉（選抜）

栃木（栃の葉少年男子選抜軍）20（10—6 10—8）14 大阪

沖縄 23（10—12 13—6）18 福島（選抜）

○…三試合が逆転勝負。山口×埼玉は後半7分14—11から山口は旗手、原田で一気に15—14と逆転いちどは埼玉に粘りつかれたが、残り5分19—17から連続5ゴールして突き放した。

沖縄×福島も福島が後半、いちはやく3点差をつけたのだが、沖縄は10分15—15のあと5ゴールをたたみかけ主導権を奪った。

福島は南条（学法石川高）、児玉（安積高）らの攻撃力で先行しながら、後半が走りがとまり、沖縄につけこまれた。

富山×福岡は、単独チーム同士の対戦で、大変な点のとりあいとなり、富山が17—18から22—19とすれば、福岡もすぐに24—22とするなど、もつれにもつれた。

しかし、福岡の動きが気に鈍くなり15分以降ノーゴール、富山は16分同点（24—24）のあと連続得点して、あっという間に11点差をつけてしまった。

栃木×大阪は、大阪にシュートミスが多く、前半15分から栃木が先手をとりつづけて快勝した。

山口、後半に崩れる

▽準決勝

富山 18（6—8 12—6）14 山口

得	【山口】		【富山】	得
0	松本（岩国工）	GK	田中	0
0	塚田（岩国工）	GK	林	0
3	藤田（岩国工）	FP	瀬戸茂	4
2	河本（岩国工）	FP	矢田	10
2	旗手（岩国工）	FP	小坪	1
5	原田（岩国工）	FP	金原	1
1	清水（岩国工）	FP	中原	1
1	川田（下松工）	FP	瀬戸政	0
0	中村（岩国工）	FP	川崎	0
0	古木（下松工）	FP	森	0
0	世見（岩　国）	FP	山本	0
0	大浜（岩国工）	FP	桜打	1
14	（2）	PT	（2）	18

（審・斉藤、千野）

○…山口は15分3—4から5点連取で優位に立ったが、後半開始直後、退場者を出したスキに、富山の反撃を食い5分9—9、一進一退から富山が残り5分14—14のあと、ディフェンスの立ちなおりで守りを固める一方、みごとなチームプレーで得点機を活かし4点連取、山口を押し切った。（北井）

栃木 26（13—7 13—4）11 沖縄

○…栃木は練習量充分で自信たっぷりな立ち上り（7分4—1）だったが、沖縄も粘り15分5—6と追いこんだ。

しかし、栃木はディフェンスがまとまりのあるプレーで、その後の沖縄の攻撃を最少限に食い止め攻めてはポスト、速攻と多彩な展開で、後半10分21—8、大勢を決めた。（小林）

得	【沖縄】		【栃木】	得
0	東恩納（前原）	GK	石原（足利工）	0
0	玉城（浦添）	GK	内山（石橋高）	0
0	城間（浦添）	FP	武井（石橋高）	7
1	栄門（前原）	FP	薄井（烏山高）	2
2	新崎（前原）	FP	山崎（足利工）	6
1	糸満（前原）	FP	渡辺（足利工）	1
3	下地（浦添）	FP	鎌倉（国学院）	5
2	上原（前原）	FP	斉藤（石橋高）	4
2	兼本（前原）	FP	加藤（足利工）	0
0	瑞ケ山（前原）	FP	塚崎（足利工）	0
0	仲真次（前原）	FP	荒川（石橋高）	1
0	前原（浦添）	FP	青木（石橋高）	0
11	（2）	PT	（1）	26

（審・大塚、佐分）

▽3位決定戦

沖縄 23（10—12 13—8）20 山口

○…山口の滑り出しは10分6—2とよかったのだが、沖縄は後半になって、今大会好調の攻撃が一気に火をふき3分13—12とあっさり逆転、さらに攻撃の手をゆるめず15分18—15と逆に優位となり、残り2分23—18、宿願の3位入賞を鮮やかに果した。（平井）

▽決勝

栃木 16（5—7 11—6）13 富山

○…緊迫したムードは、さすがに決勝戦らしく、しかも地元栃木が劣勢を追いあげたので、ムードは最高に盛り上った。

史上初の4連覇の偉業に挑む富山・氷見高は、相手の固い動きを突いて巧みなパスワークからポイントをあげ15分7—4とした。

栃木は、先行されながらも焦らず、じっくりと反撃の機会を待っていたようで、24分PTで5—7として、いっそう、その手がかりをしっかりしたものにした。

はたして後半、栃木は速攻からじわじわと点差を詰め10分9—9と追いついたあと11分斉藤で逆転富山も、その直後、矢田で10—10、12—12まで点をとりあったが栃木は16分斉藤、17分武井で初の2点差、さらに2点をたたみかけて22分16—12、大歓声のなかで勝利を決定づけた。

富山は、前半15分以降、約13分間追加点がとれなかったことと、終盤のシュートを、栃木GK陣に捌かれたのがなんとも痛かった。

栃木の優勝は25年の足利高以来30年ぶり。

なお、氷見高は前夜宿舎のとなりが出火、全員が消火作業に協力被害を最小限にとどめる〝活躍〟を示し、市民から感謝をうけた。

得	【富山】		【栃木】	得
0	田中	GK	石原	0
0	林	GK	内山	0
3	瀬戸茂	FP	斉藤	6
2	山本	FP	鎌倉	1
1	中原	FP	渡辺	0
1	金原	FP	山崎	1
0	小坪	FP	薄井	5
6	矢田	FP	武井	3
0	瀬戸政	FP	加藤	0
0	桜打	FP	塚崎	0
0	森	FP	荒川	0
0	川崎	FP	青木	0
13	（2）	PT	（2）	16

（審・上久保、北井）

石川、広島を破り優勝

少年女子（11チーム）

▽1回戦

広島（山陽女高）13（6－1、7－1）2 岩手（全岩手）

愛知（選抜）20（10－7、10－3）10 茨城（水海道二高）

熊本（選抜）22（14－4、8－2）6 北海道（釧路選抜）

○…愛知×茨城が小ぜりあいを演じた。先行したのは愛知だったが、茨城はすぐに逆転、一進一退をつづけた。

しかし、愛知は18分7－7から柴田の連続得点で再びペースをつかみ、後半5分12－8からの5ゴール連取で勝利を決定づけた。

▽準々決勝

広島 10（5－3、5－6）9 神奈川（全神奈川）

栃木（栃の葉少年女子選抜軍）16（6－2、10－1）3 愛媛（新居浜市商高）

愛知 15（8－5、7－5）10 兵庫（選抜）

石川（小松市女高）12（7－5、5－3）8 熊本

○…見応えのある試合がつづいた。広島×神奈川は、キープ気味の広島と早い仕掛けの神奈川という好対照だったが、広島にはいきなり4－0とリードした余裕があった。神奈川は後半、一の瀬（明倫高）のすばらしいプレーで同点（7－7）に追いついたものの、主導権までは握れず、広島は、こでもじっくり攻めて2点、逃げ切った。

栃木×愛媛は、栃木が相手のミスに乗じて先手をとり、愛媛もPTを活かして追いあげたのだが、栃木の固いディフェンスに会って前半15分2－4のあと、後半18分までノーゴール、しかも、あげた3点はすべてPTという貧攻では勝利は望めなかった。

愛知×兵庫は兵庫GK藤本（夙川学院）の元気なプレーで盛りあがったが、兵庫は攻めが荒く、そこを巧者の愛知につけこまれた。

前半の3点差は兵庫にそれほど負担とは思われなかったが、愛知は後半開始早々5ゴールを奪い7分13－5、勝負を決めた。

石川×熊本は、優勝候補同士らしい序盤となり、わずかに熊本が押し気味だったが、石川は14分4－5からのPTで同点、さらに太田の強肩で2点を加え、一気に劣勢を盛り返した。熊本は後半にいちど1点差とし、相手の得点源二人に密着マークをつけるなど粘ったが、攻撃力に一押しが欠けた。

広島、栃木の夢砕く

▽準決勝

広島 10（5－2、2－5、1－0、2－0）7 栃木

得	【栃木】		【広島】	得
0	葛生（藤岡高）	GK	深瀬	0
0	栗原（栃女高）	GK	長谷部	0
1	湯本（国学院）	FP	石田	2
2	森田（栃女高）	FP	中本	2
1	見田（栃女高）	FP	中田	4
2	長谷川（小山城南）	FP	渡辺	0
0	安藤（栃女高）	FP	田村	1
1	鳥居（国学院）	FP	高根	1
0	臼井（国学院）	FP	原田	0
0	田中（田沼高）	FP	矢田	0
0	岩谷（栃女高）	FP	山田	0
0	大栗（栃女高）	FP	蔵野	0
7	（2）	PT	（3）	10

○…全部門決勝へと願う栃木がつまづいた。広島GKの好守に阻まれ思うように点のとれなかった栃木は、後半みちがえるような動きで5点を奪い15分7－5、押し切れるかにみえた。ところが、このあと小さなミスが出て、残り4分間で2点を失い延長戦へ引きづりこまれた。いちど逆転した試合を追いつかれるのはショックだ。

延長後は、明きらかに栃木の攻守には動揺がみえ、一方、広島は少ないチャンスを活かすとともに守りでは、忠実に相手の動きをマーク、3－0と引き放し、波乱を呼んだ。広島の気力が賞されるが栃木としては前半守りが荒く再三PTを課せられ傷口を拡げたのが悔やまれよう。（千野）

石川 16（7－6、4－5、3－0、2－1）12 愛知

得	【愛知】		【石川】	得
0	木村（市邨学）	GK	吉田	0
0	三宅（市邨学）	GK	新宅	0
4	鷲野（市邨学）	FP	中田	1
4	寺沢（市邨学）	FP	藤田祐	3
2	坪井（市邨学）	FP	高木	4
0	岩佐（市邨学）	FP	中川	1
1	二村（市邨学）	FP	太田	7
1	柴田（市邨学）	FP	高田	0
0	稲垣（市邨学）	FP	竹	0
0	近藤（市邨学）	FP	藤田裕	0
0	杉野（市邨学）	FP	和田	0
0	原（市邨学）	FP	大森	0
12	（4）	PT	（2）	16

（審・北井 上久保）

○…事実上の決勝といわれる一戦だけにエキサイトした。

石川は、愛知の切りこみに手を焼き、前半4本のPT点を奪われ後半には攻撃の単調から相手の反撃を許し、残り3分10－11と苦しかったが17分太田が同点シュートを決めて持ち直した。

このあと石川はサヨナラPTの場面を逃したが、延長後は完全にマイ・ペース、26秒太田のみごとなミドルを口火に3点連取で勝負を決めた。

愛知は気力のある攻守で、あと5分まで優勢であった。終ってみれば、押しながらも止めの一本を刺せなかったのが悔やまれよう。逆にそれは石川GKの健闘ということになる。（杉山）

▽3位決定戦

愛知 19（9－3、10－4）7 栃木

○…栃木は前日の敗戦ショックが抜け切らぬような試合ぶり。リードされたあと、なんとか粘ろうとするのだが、攻防両面に鋭さがなく、前半15分3－5からの連続5失点で、事実上、勝負は決まった。

▽決勝

石川 14（7－5、7－2）7 広島

得	【石川】		【広島】	得
0	吉田	GK	深瀬	0
0	新宅	GK	長谷部	0
1	高田	FP	石田	0
7	太田	FP	中本	2
1	中川	FP	中田	2
0	中田	FP	渡辺	1
2	高木	FP	田村	2
3	藤田祐	FP	高根	0
0	藤田裕	FP	原田	0
0	竹	FP	蔵野	0
0	和田	FP	矢田	0
0	大森	FP	山田	0
14	（2）	PT	（0）	7

（審・佐分 大塚）

○…前半は多彩な攻め合いとなったが、後半になると広島は、石川の出足のあるディフェンスに、攻撃の芽をつぶされた。

この間に石川は、速攻から着実にポイント、8分9－5と主導権を握った。

広島は10分中田、11分渡辺で2点差とし、あるいはと思わせたが石川は、ここで再スパート、2分間に3ゴールして、粘ろうとする広島を突き放した。石川の勝因に守りの安定をあげたい。（千野）

日本リーグ

日立栃木、国体の好調持ちこす

ジャスコは大崎電気に逆転勝ち

第5回日本リーグは〝国体ブレーク〟のあと、10月26日京都と佐久（長野）で再開、男子2、女子4試合が行われた。

男子は、湧永薬品が乱戦ながらも三陽商会を破り順当に2勝目をあげた。ダークホース同士、注目の日新製鋼×大阪イーグルス戦は先行した日新が辛くも逃げ切り、Aクラス入りに希望を残した。

一方、女子は、栃木国体で宿願の優勝を飾った日立栃木が、その好調を持ちこみ、立石電機に逆転勝ち11月第1戦でも大崎電気を制し3連勝、トップに立った。

追う各チームは、日本ビクターがやや立ちなおりの気配を示し、2連勝目指すジャスコは、うるさい大崎を突き放したものの、沖縄での立石戦で手痛い一敗を喫した。

このままのペースで日立栃木が走り切るか、ジャスコらの追いあげがなるか、かつてない興味深い展開をみせながら、いよいよ大詰の激戦を迎える。

◇第3週（10月26日）

▽男子・京都

日新製鋼　25（11 14−12 10）22　大阪イーグルス

得	【日新】		【大阪】	得
0	三川	GK	本田	0
0	西川	GK	信貴	0
5	泉	FP	高橋	10
4	徳田		源野	1
6	大庭		河原崎	0
0	吹上		福井	3
4	脇若		辻本	3
5	吉見		千野	0
1	洞ケ瀬	（審・藤木・福井）	足羽	0
0	森		大西	4
0	日野		三谷	1
0	甲斐		勝本	0
25	（1）	PT	（5）	22

○…Aクラス入りに希望をもつ両チームだけに熱がこもった。

例によって大阪は立上りが悪く15分4−1とリードを奪われたが前半終了間ぎわから、後半10分までに、巧みに態勢を立てなおし15分17−18と粘りついた。

しかし、日新には、すっかり地力がついている。17分吹上のゴールのあと19分PT、20分徳田で4点差をつけ、このピンチを逃れた。

▽同・徳山

湧永薬品　30（16 14−10 10）20　三陽商会

得	【湧永】		【三陽】	得
0	大城	GK	吉近	0
0	福井	GK	山村	0
5	津川	FP	関	7
4	穂積		金子	2
7	池ノ上		坪子	4
1	志賀		稲水	1
7	山本	（審・岡村・中村）	山口	3
3	松本		石原	0
1	藤木		大熊	1
2	戸田		鵜沢	2
0	生駒		斉藤	0
0	内田			
30	（5）	PT	（2）	20

○…三陽は5分3−1という好スタート、15分すぎまで先行した。

湧永は、このあとようやく目がさめ4点連取でペースを取り戻した。リードを許すと三陽は、個人の突進力に頼り勝ちとなり、しかも湧永に、後半、関のマーク（戸田）策に出られたため、得点がまとまらず10分20−13、大勢が決まった。

勝ったとはいえ、湧永は本調子とはいえない。

▽女子・京都

日立栃木　14（9 5−3 8）11　立石電機

得	【日立】		【立石】	得
0	寺沢	GK	井村	0
0	斉藤	GK	荒木	0
1	吉田	FP	姫野	1
3	島田		桑原	0
0	山戸		木下	2
5	大輪		紀野	3
4	水上	（審・井上・新村）	薮田	3
1	毛塚		羽立	2
0	手打		喜久山	0
0	箕輪		亀園	0
0	小根沢		岩村	0
0	前田		近藤	0
14	（5）	PT	（1）	11

○…日立セブンに貫禄が出て来た。自信（国体制覇）というのは大したものだ。

試合は立石が押し気味、バラエティに富んだ攻め口で先行、17分5−5から姫野、木下、紀野で優位に立った。

ところが後半になると、日立の鋭い攻めに、守りが乱れはじめ7分までにPTなどで4点を失い10分10−9と詰め寄られた。

ここで立石は紀野の巧技で11−9とペースを取り戻したかにみえたのだが、12分以降、わずか3分間ほどで失点4（PT2）、あっさり主導権を日立に渡してしまった。

このたたみかけは、これまでの日立に無かったもので、勢いのあるチームのパワーを見せつけた。

こうなると守りも固まる。15分以降、立石の反撃を完封、24分元気もの水上が、ぐさりと勝利の一投を刺して優勝へ最初の関門を突破した。

▽同・徳山

ジャスコ　18（12 6−3 8）11　大崎電気

得	【ジャ】		【大崎】	得
0	山本一	GK	藤村	0
0	矢部	GK	梅野	0
1	平田	FP	西	2
4	松下		陽田	3
7	林		石井	1
2	山本二		渡部	0
0	横山		徳渕	4
2	宮崎	（審・横瀬・片山）	江島	1
0	若田		根間	0
0	松岡		宮嶋	0
0	重村		西嶋	0
0	辻本		嘉本	0
18	（3）	PT	（1）	11

○…ジャスコは先手をとられた焦りからか強引に打って出て、かえって大崎につけこまれた。

大崎が後半も、このペースを握っていれば、もっともつれたのだろうが、ジャスコはハーフタイムをはさんで落ち着きを取り戻し2分8−8、5分9−9、9分10−10と大崎を締めつけたあと2本のPTを林が決めて、ようやくリード15分すぎは、前半とは逆に、大崎のシュートミスを速攻につないで引き放した。

▽同・佐久

ブラザー工業　14（9 5−5 5）10　東京重機

得	【ブ工】		【重機】	得
0	屋比久	GK	佐久間	0
0	中村	GK	橋本	0
2	杏原	FP	寺西	1
3	竹内		古谷	0
2	則武		川本	4
2	増永		沖山	3
2	植田		鈴木久	1
1	山村	（審・加藤・田島）	宮田	0
0	塩谷		斉藤	1
0	尾崎		森田	0
0	松下		大前	0
2	小平		鈴木希	0
14	（3）	PT	（1）	10

○…重機は、前半15分まで相手の11本のシュートを2点におさえ攻めては川木の活躍で4−2とリードをつづけた。

ブラザーは17分から竹内に当りが出て一気に点差を詰めたが、重機も主導権までは渡さず、後半5分まで同点がつづいた。

勝負を決めたのは10分すぎ、ブラザーが杏原のシュートを口火に4点連取した場面で、重機はまっ

たく攻守に疲れがのぞき、押しまくられ、それまでの善戦をフイにしてしまった。

日本ビクター 15（5―5、10―3）8 北国銀行

【北国】得	北国			日ビ	【日ビ】得
0	酒谷	GK	GK	渡辺	0
0	辻	GK	GK	鈴木	0
0	大西	FP	FP	加藤	1
2	中山	FP	FP	池田二	2
0	本田	FP	FP	小島	8
0	木戸	FP	FP	染谷	0
3	千歩	FP	FP	岩城	1
0	木内	FP	FP	伊藤	1
2	八木	FP	FP	志村	0
1	西出	FP	FP	村上	2
0	川本	FP	FP	中根	0
0	坂	FP	FP	池田有	0

（審・徳前、山口）

15（7）PT（1）8

○…栃木国体で日立に敗れて以来、ふさぎこんでいるビクターがどう立ち直っているか注目されたが、前半は、まったく攻守にチグハグ、4本のPT点がなければ、北国の元気にペースを奪われただろう。

しかし、後半になってようやく女王らしい試合ぶりとなり、20秒池田のゴールのあと二本のPTを含む連続7点で10分12―5、勝利のメドをつけた。北国は千歩のシュート力などでチャンスを確実にモノにしていたが、守りでビクターの突進を支え切れぬ面がのぞき、痛いところでPTを課せられてしまった。

◇…男 子…◇

	試	勝	分	負
湧永薬品	3	3	0	0
大同特殊鋼	2	2	0	0
日新製鋼	3	2	0	1
大阪イーグルス	3	1	0	2
本田技研鈴鹿	2	0	0	2
三陽商会	3	0	0	3

◇…女 子…◇

	試	勝	分	負
日立栃木	3	3	0	0
日本ビクター	3	2	1	0
ジャスコ	3	2	0	1
ブラザー工業	3	2	0	1
立石電機	3	2	0	1
大崎電気	3	0	1	2
北国銀行	3	0	0	3
東京重機	3	0	0	3

～11月3日終了まで～

速 報（11月2、3日）

◇11月2日（沖縄）

▽男子

湧永薬品 25（9―9、16―6）15 本田技研鈴鹿

▽女子

立石電機 14（5―5、9―6）11 ジャスコ

◇11月3日（高岡、大阪）

▽男子

大同特殊鋼 34（15―9、19―9）18 大阪イーグルス

日新製鋼 32（12―11、20―9）12 三陽商会

▽女子

ブラザー工業 12（8―2、4―5）7 北国銀行

日本ビクター 19（9―7、10―2）9 東京重機

日立栃木 16（8―5、8―4）9 大崎電気

女子の終盤戦展望

男子は、どうやら今年も大同×湧永戦で結着のようだが、女子は予想を上廻る大激戦となってきた。

いまのところ、日立栃木が単独首位だが、このあとジャスコ(9日・岐阜)、ビクター(23日・水海道)、ブラザー（30日・名古屋）を残すだけに、優勝最短距離とはいい切れない。

三戦の中では、いちばんジャスコ戦が危ない。栃木国体からの好リズムが、このあたりで落ちこむ心配があるからだ。

ジャスコは、立石戦を落した影響が、今後どう出るか。日立戦に敗れると、一気に転落してしまう懸念もある。逆に、ここで日立を叩けば、29日のビクター戦(東京)に2連覇をかけることが出来る。

ビクターは、立石戦（15日・四日市）が一つのヤマ。立石も、この一戦をとれば、優勝の望みが出てくるだけに、興味深い。立石はこの一戦をモノにすれば大きく張り出せる。

ダークホース視されたブラザー大崎電気は、波が激しすぎる。いきなりビクターと引き分けて、あるいは、と思われた大崎も、ジャスコ、日立には通ぜず、あとは立石戦（29日・呉）をとって、優勝争いを引っかき廻すだけ。

ブラザーは、9日のビクター戦(9日・岐阜)をとるようなことがあれば勢いにのれるが、苦手のジャスコを残すだけにどうか。（S）

日程一部変更　日本リーグは11月の日程について次のとおり変更などを発表した。

▽未定の11月16日・坂戸市民体育館の女子の東京重機×大崎電気は12時20分開始、男子の大同特殊鋼×日新製鋼は13時30分開始。

▽11月29日呉市体育館の女子、立石電機×大崎電気は14時50分開始、男子の本田技研鈴鹿×日新製鋼は16時開始。

女子2部1回戦終わる

日本リーグ2部は、男女とも順調にスケジュールが消化、女子は1回戦が終了、大和銀行、ムネカタが1勝1分で並び、得失点差でわずか4点上廻る大和が1位で折り返した。

男子は、11月3日現在、予想どおり大崎電気、三景が3連勝でトップを並走、他の4チームはすでに優勝の可能性がない。

▽女子2部(10月26日、11月3日)

大和銀行 20（7―4、13―1）5 和歌山県商工信用組合

大和銀行 16（7―9、9―7）16 ムネカタ　引き分け

▽男子2部（11月1～3日）

大崎電気 25―15 自衛隊勝田

三　景 32―15 日鉄建材

トヨタ車体 27―12 セントラル自動車

大崎電気 26―11 セントラル自動車

三　景 17―13 トヨタ車体

自衛隊勝田 30―17 日鉄建材

大崎電気 35―15 トヨタ車体

三　景 19―15 自衛隊勝田

日鉄建材 21―19 セントラル自動車

高校選抜の出場校「16校」に増大

全国高体連ハンドボール部は、来年の全日本高校選手権などについて発表したが、注目されるのは来年3月の全国高校選抜大会（名古屋）の参加校を、男女とも懸案の16校に増大したことであろう。

◇

▽全国高校総合体育大会について

・昭和五十六年度

期日・八月一日（土）開始式
二日（月）〜七日（金）競技

会場　東京都八王子市
中央大学（体育館四面・全天候一面、クレーコート二面）

・昭和五十七年

太陽国体から十年目を記念して鹿児島県隼人町にて行なわれる。

▽全国選抜大会について

・昭和五十五年度大会は、来春三月二十五日〜二十七日、名古屋市に於て開催される。

本年は男女各十六チーム（従来は十チーム）が参加する。チームの内訳は、加盟校数並びに各ブロックの都府県数を配慮した。（但し東海地区は開催地の枠により除いた。）北海道一、東北二、関東二、東海一。北信越二、近畿二、中国二、四国一、九州二、開催地一、参加チーム数については、今後二十四チームに増すよう要望が多いので、地元開催県と協議する努力をする。

▽日韓高校交歓試合について

五十六・七年度は中地区（東海・北信越・近畿）が担当する。

▽ジュニア・ナショナル候補のリストアップに、高体連からも候補を提出するため、全国総体の折に強化部が推薦メンバーの選考資料に資した。

▽外国遠征について

近年外国より日本協会宛に高校生対象程度の諸大会招聘が入りますが、申込み期日の関係でこれまで受け入れられませんでしたので、この二月定例委員会までに、希望校、希望地区などの調べを行なうことになった。今年度は台湾、イタリヤ等からの招聘があった。

来年の日本リーグ
「短期集中開催」法式を採用

日本リーグは、このほど来年の「第6回日本リーグ」の運営基本方針を明きらかにした。

それによると試合方法は、男子が2年ぶりで6チーム2回総当り女子が8チーム1回総当りで、男子は各カード1回戦（15試合）を前期、2回戦を後期とする。

女子は全28試合を2期に分けて行なう。

期間は、前期が6月13日から7月5日まで、後期が11月7日から29日までの予定で、すでに47都道府県協会に対し、開催希望地を募りはじめている（11月20日〆切り）

注目されるのは、チーム費用負担の軽減をはかるため、開催地をブロック割りにして、あらかじめ指定、一回の遠征で2試合が消化できるよう考りょすることになった点だ。

ブロック割りは関東（東京など1都6県）、中部（愛知、石川など6県）、関西（大阪、広島など2府6県）の三つとし、この三ブロック以外の1道25県は「単独開催地域」とすることになった。

このシステムによれば、男子4女子4チームが、ある週の土曜、日曜に関東ブロックへ遠征、埼玉と栃木で各1試合を行ない帰れる。

現行は、今週九州、来週関東ととび、しかも、各1試合で戻るという不経済な日程が多く、再検討が望まれていた。

また、運営委員会では、前、後期とも、できれば3週間で日程を消化したい意向をもっており、開催地チームや、チーム移動の都合で平日開催も利用することになった。

これらの改正を、日本リーグでは「短期集中システム」と呼んでいるが、経費節減とともに、来年は、男女の世界選手権アジア予選男女の世界ジュニア選手権アジア予選などが行われることが予想されることも考りょに入れられている。

なお、一部に女子の6チーム縮少説が流れていたが、来年はこれまでどおり8チームとし、6チーム制は57年度以降に検討することとなった。

また、マスコミ対策を強化するため、前後期各週を関東、中部、関西に分散し、テレビ放映などを積極的に推進することも申し合わされている。

東ドイツ招待や日中交流
56年度の国際事業

日本協会は、56年度の事業計画を煮つめはじめているが、国際交流としては、モスクワ・オリンピック優勝の東ドイツ男子の招待を最優先に考えるほか、日中定期交流（中国側来日）も、上半期に組みこむよう検討されている。

また、シニア、ジュニア各男女合わせて四つのアジア予選のうち一つは、日本開催が望まれるものとの見通しがあり、11月、12月の常務理事会で協議することになりそうだ。

各地学生秋季リーグ戦 ①

日体 得失点差で 早稲田おさえ優勝

関東学年秋季リーグ戦は、9月20日から10月26日まで東京・駒沢屋内球技場と同体育館などで行われた注目の男子1部は、第1日、有力とみられた早稲田が伏兵・国士館に敗れる波乱の開幕となり、その早稲田が、第2日以降持ちなおし日体、中央を連破したことから、がぜん優勝争いはエキサイトした。第6日を終って早、中、日体はいずれも5勝1敗、得失点差では中央が176—121、早稲田が158—121、日体が132—98となり、最終日の日体×中央戦で中央が1点差で勝てば、早稲田が筑波戦に22点以上の差で勝たない限り中央の2連勝、日体は三番手という展開になった。

まず、早稲田×筑波戦で早稲田が快勝、得失点差を37として、優勝戦線に残った。これで、場内注目のうちに始った日体×中央戦は、中央は勝てば優勝、日体は4点差以上の勝利なら優勝ということになった。試合は中央が優勝を意識したか強引なプレーが多く、日体は着々とリード、にわかに日体優勝の色が濃くなり、ついに28—15で快勝、早稲田と同率の6勝1敗、2シーズン連続得失点差の争いとなり、日体が早稲田を10点上廻って、2シーズンぶり28度目の優勝を飾った。

前日まで優勝最短距離の中央は3位。Bクラスでは国士館が初の3勝をマーク、5位に食いこんだ。2部は日大が8度目の優勝。

一方、女子1部は6校2回戦制で行われ、日体が筑波1回戦をとって9戦全勝となり、最終日を待たず3シーズン連続34度目の優勝を決めた。

筑波は、最終日、10連勝を狙う日体に一矢を報い2シーズン連続2位、強豪・東女体大は乱調で二強に水をあけられて初の4敗、3位に終った。

▽男子1部

筑波大 25（8—10 17—7）17 法政大
国士館大 18（6—8 12—9）17 早稲田大
中央大 34（16—13 18—7）20 順天堂大
日体大 25（12—5 13—8）13 慶応大
筑波大 19（9—10 10—8）18 国士館大
早稲田大 26（14—13 12—4）17 法政大

日体大 27（12—10 15—4）14 順天堂大
中央大 32（14—10 18—9）19 慶応大
早稲田大 25（13—8 12—10）18 順天堂大
日体大 19（11—6 8—11）17 法政大
中央大 32（18—12 14—8）20 国士館大
筑波大 28（15—12 13—10）22 慶応大
中央大 27（14—8 13—9）17 法政大

筑波大 31（15—10 16—7）17 順天堂大
日体大 19（8—12 11—6）18 国士館大
早稲田大 30（15—7 15—9）16 慶応大
中央大 33（19—13 14—11）24 筑波大
国士館大 25（14—10 11—9）19 慶応大
早稲田大 18（11—11 7—4）15 日体大
法政大 27（12—15 15—7）22 順天堂大

日体大 27（15—7 12—11）18 筑波大
早稲田大 21（11—13 10—5）18 中央大
法政大 23（11—12 12—9）21 慶応大
国士館大 31（16—5 15—12）17 順天堂大
慶　大 26（14—9 12—11）20 順天堂大

前半は、慶応、順天ともに、互角に戦ったが、後半にはいり、慶応は、北川のロングシュートが決まりだし、これをきっかけに、ポスト、サイドと多彩に攻め、点差をあけていった。

順天は、三尾の動きがいまひとつさえず、思うように攻めきれなかったが、終盤、藤本のミドルシュートがきまりだしたが、慶応に及ばなかった。（荒木）

法　大 25（15—8 10—10）18 国士大

得	【国士】		【法政】	得
0	大山	GK	会田	0
0	矢内	GK	小川	0
6	栗田	FP	道阻土	2
3	古関	FP	三浦	3
0	小林	FP	加藤	3
0	佐川	FP	飯塚	2
3	三本松	FP	森本	7
0	佐藤	FP	直井	3
0	山口	FP	乃村	1
0	裕	FP	馬場	0
0	雪山	FP	野口	3
6	池田	FP	高良	0
18（2）		PT		（2）25

（審・清水　菊池）

国士館は、前半一年生、池田の速攻の活躍で主導権を握ったようにみえたがいまひとつペースに乗りきれずに前半を終った。後半にはいり法政は、ディフェンスがあまくなった国士館に対して、森本を中心にボールを回し、ポスト、サイドから攻撃をして、国士館に速攻のチャンスをあたえなかった。（荒木）

早　大 21（10—11 11—8）19 筑波大

得	【筑波】		【早大】	得
0	佐藤	GK	譲原	0
0	宿輪	GK	菊島	0
0	河野	FP	村崎	1
5	矢島	FP	植村	4
2	大塚	FP	吉井	8
2	田中	FP	東根	3
0	山下	FP	阿部	0
0	高須	FP	北島	0
7	西山	FP	脇野	0
0	酒井	FP	小山	1
3	中島	FP	田端	4
0	古屋	FP	村越	0
19（2）		PT		（2）21

（審・青木　得丸）

早稲田は、村崎のクウィックのロングシュートなどで着実に加点をし、守っては、菊島の攻守で再三のピンチをまぬがれた。筑波はイージーミスやシュートミスが目立ち、チャンスをものにできなかった。終盤筑波もおいあげたが、決めてがなく、早稲田にかわされてしまった。（荒木）

日体大 28（17—9 11—6）15 中　大

得	【中央】		【日体】	得
0	鷹巣	KG	伊藤	0
0	田中	KG	阿部	0
2	松原	FP	成瀬	3
6	田口	FP	池田	8
1	猪野	FP	溝部	3
0	藤井	FP	酒井	2
3	尾上	FP	平野	4
0	鈴木	FP	岡田	0
3	塚田	FP	村井	2
0	兼行	FP	宮城	3
0	中川	FP	寺山	3
0	実方	FP	佐々木	0
15（2）		PT		（4）28

（審・清水　菊池）

日体大は井藤を中心にしてよく守り、前半から速攻をうまく使い

着実に得点を決め中央を引き離した。後半にはいっても日体大は速攻を中心とした攻撃で優勝を決めた。これに対して中央は、大砲の猪野、田口のシュートに精彩を欠きペースにのりきれずに終ってしまった。

〔順位〕①日体大6勝1敗②早大6勝1敗③中央大5勝2敗④筑波大4勝3敗⑤国士大3勝4敗⑥法政大3勝4敗⑦慶大1勝6敗⑧順天堂大7敗　同率は得点差

日大、7戦全勝で首位

▽男子2部

東海大 41（20－9、21－5）14 青学大
駒沢大 30（15－9、15－8）17 明星大
明治大 27（14－7、13－7）14 明星大
東海大 22（11－4、11－10）14 駒沢大
明治大 30（14－12、16－8）20 立教大
日本大 34（18－7、16－12）19 駒沢大
東海大 29（15－10、14－4）14 立教大
明星大 17（6－9、11－7）16 青学大
日本大 30（15－12、15－9）21 明治大
明星大 28（13－10、15－8）18 立教大
明治大 24（11－12、13－10）22 東海大
日本大 35（16－4、19－7）11 青学大
明治大 30（14－8、16－5）13 青学大
日本大 41（18－13、23－5）18 立教大
駒沢大 30（14－10、16－6）16 青学大
茨城大 17（9－7、8－4）11 立教大
東海大 27（16－6、11－4）10 明星大
駒沢大 30（13－16、17－6）22 立教大
茨城大 23（13－6、10－9）15 青学大
駒沢大 25（18－8、7－8）16 茨城大
日本大 26（19－3、7－5）8 明星大
明治大 22（9－9、13－3）12 茨城大
立教大 24（11－1、13－6）7 青学大
東海大 22（10－11、12－10）21 茨城大
明治大 22（12－12、10－9）21 駒沢大
日本大 22（11－6、11－7）13 茨城大
茨城大 11（5－5、6－5）10 明星大
日本大 18（9－7、9－7）14 東海大

〔順位〕①日大7勝②明大6勝1敗③東海大5勝2敗④駒大4勝3敗⑤茨大3勝4敗⑥明星大2勝5敗⑦立大1勝6敗⑧青学大7敗

3部は東京理大好調

男子3〜6部は全日程が本誌〆切日までに終了せず、関東学連報告による途中経過は次のとおり。

▽男子3部

東京理大 29－12 大東文大
横商大 26－22 東　大
横国大 20－15 芝工大
東京理大 21－15 芝工大
専修大 25－21 横商大
芝工大 19－17 横商大
大東文大 12－12 横国大
専修大 18－12 大東文大
東学大 15－13 東京理大
東　大 27－11 専修大
横商大 25－18 大東文大
東　大 22－13 芝工大
横国大 21－17 専修大
東学大 20－17 横国大
東学大 24－11 大東文大
東京理大 24－20 横商大
東学大 23－18 芝工大
東学大 20－15 専修大
東　大 23－13 横国大
横商大 21－12 横国大
東　大 18－14 東学大
東京理大 23－18 専修大
東　大 37－13 大東文大
芝工大 18－16 専修大
東京理大 27－19 横国大

▽男子4部

東工大 18－17 東洋大
上智大 17－15 防衛大
神奈川大 18－12 防衛大
東洋大 27－16 横浜市大
東洋大 14－8 東経大
東経大 24－14 横浜市大
上智大 18－12 東洋大
防衛大 29－7 横浜市大
東工大 15－8 東経大
上智大 21－13 神奈川大
神奈川大 15－9 東工大
上智大 22－15 横浜市大
東経大 23－15 埼玉大
神奈川大 21－14 横浜市大
東洋大 16－14 埼玉大
上智大 19－11 東経大
神奈川大 21－18 東経大
防衛大 27－12 東洋大

▽男子5部

都留文大 23－19 武蔵大
千葉工大 23－17 創価大
一橋大 14－11 明学大
一橋大 21－15 武蔵大
武蔵工大 13－10 明学大
関東学院大 19－18 創価大
千葉工大 20－13 関東学院大
千葉工大 18－11 武蔵工大
武蔵大 23－16 都留文大
一橋大 28－17 都留文大
武蔵大 20－16 武蔵工大
関東学院大 23－11 武蔵工大
千葉工大 17－9 明学大
明学大 16－15 関東学院大
一橋大 21－11 千葉工大
千葉工大 17－10 武蔵大
創価大 18－12 武蔵工大
関東学院大 15－13 都留文大
一橋大 24－16 創価大
明学大 15－11 武蔵大
千葉大 19－11 都留文大
一橋大 29－17 関東学院大
創価大 16－15 武蔵大
創価大 15－10 明学大
都留文大 24－15 創価大

▽男子6部

都立大 37－13 拓殖大
文教大 26－17 独協大
日本工業大 25－16 東京工芸大
成蹊大 25－13 東京農工大
和光大 21－14 亜細亜大
和光大 17－8 東京農工大
亜細亜大 22－17 独協大
文教大 31－11 和光大
文教大 26－11 東京農工大
成蹊大 17－12 和光大
文教大 24－20 亜細亜大
日本工業大 30－22 拓殖大
成蹊大 29－16 独協大
東京農工大 25－16 拓殖大
千葉大 15－4 東京農業大
千葉大 41－7 東京工芸大
都立大 19－17 日本工業大
千葉大 18－9 日本工業大
東京農業大 15－14 日本工業大
都立大 21－13 東京農業大
千葉大 37－11 拓殖大
拓殖大 21－13 東京工芸大
都立大 14－12 千葉大
和光大 19－18 独協大
成蹊大 16－15 文教大

1部ベストセブン

関東学連は、今秋の1部ベストセブンを次のとおり発表した（女子20頁）

▽GK　井藤（日体）▽FP　溝部平野（ともに日体）、村崎、東根（ともに早稲田）、松原（中央）、西山（筑波、得点王63）。

日体、3連勝を飾る　女子

▽女子1部

日体大 32（19―3　13―1）4 茨城大
日体大 29（14―3　15―2）5 茨城大
日体大 30（14―3　16―4）7 東学大
筑波大 17（6―6　11―6）12 日女体大
筑波大 19（9―6　10―3）9 日女体大
日体大 27（18―1　9―4）5 東学大
東女体大 13（8―6　5―4）10 日女体大
筑波大 22（10―3　12―5）8 東学大
日体大 15（9―2　6―2）4 日女体大
東女体大 26（18―3　8―1）4 東学大
筑波大 27（10―2　17―2）4 茨城大
筑波大 24（13―4　11―3）7 東学大
筑波大 22（11―6　11―5）11 茨城大
日体大 14（6―6　8―7）13 東女体大
東女体大 19（11―3　8―2）5 東学大
日体大 22（10―4　12―2）6 日女体大
東学大 16（11―6　5―3）9 茨城大
日体大 14（9―6　5―5）11 東女体大
東学大 20（10―5　10―5）10 茨城大
筑波大 11（8―2　3―5）7 東女体大
日女体大 25（14―3　11―2）5 茨城大
日女体大 19（11―1　8―4）5 茨城大
筑波大 10（5―4　5―6）10 東女体大
日女体大 21（13―3　8―4）7 東学大
日体大 11（5―7　6―3）10 筑波大
東女体大 20（13―1　7―4）5 茨城大
日女体大 21（11―4　10―2）6 東学大

【東学】得　河角0（GK）　前田4　西脇0　石井0　林1　片桐0　本橋1　鈴木0　片岡0
FP（審・菊地、北中）
得【日女】　0菅原　0小貫（GK）　0鈴木　3桑代　0中村　5石井　1中山　3大森　1大山　4大島　1渡辺　3金井
21（0）PT（0）6

東女体大 27（13―5　14―3）8 茨城大

【茨城】得　川崎0（GK）　富永1　竹森1　仙波0　赤木0　山崎0　市川0　横田2　谷萩0　金平4
FP（審・小川、酒井）
得【東女】　0田中　0中川（GK）　6藤本　1伊藤　1小野森　4坂本　3浜村　1藤田　6鈴木　3増子　0妹川　2毛利
27（5）PT（1）8

東女体は、終始スピードとテクニックで茨城を圧倒した試合展開であった。茨城は、これといった決め手がなく、単発な攻撃で、東女体に、速攻を許し、点差をひきはなされた。実力差のある試合であったが、茨城の金平のロングシュートが目立った。東女体は、ややミスが目立ったことが気になった。（清水）

筑波大 15（9―2　6―3）5 日体大

【日体】得　高倉0　藤井0（GK）　鈴木1　石島0　鈴木1　石井0　岩田0　大崎1　加藤0　後藤2　天野0　宇賀神0
FP（審・小川、杉山）
得【筑波】　0伏見　0久保（GK）　4藤岡　2富山　3小林　0吉沢　0岩本　0上水流　0中山　4河原　2山口　0鈴木
15（5）PT（0）5

筑波大は、固いディフェンスで日体大の攻撃を許さず、一年生キーパーの久保の思い切りの良いボール出しで、速攻を決め、筑波ペースで試合を運んだ。日体大は、筑波大のディフェンスの前に、思うように鈴木・石井らのシュートが決まらず、筑波に速攻のチャンスをあたえ、波にのりきれず終わってしまった。（清水）

【順位】①日体大9勝1敗②筑波大8勝1敗1分③東女体大5勝4敗1分④日女体大5勝5敗⑤東学大2勝8敗⑥茨城大10敗

千葉明徳、5勝マーク

▽女子2部（10月終了まで）

千葉明徳 27―1 学習院大
横国大 22―1 駒沢大
都留文大 33―3 創価大
文教大 22―7 千葉大
都留文大 42―2 学習院大
千葉明徳 17―11 東海大
横国大 17―5 千葉大
東海大 32―3 学習院大
千葉大 11―4 駒沢大
千葉明徳 37―1 創価大
都留文大 19―9 東海大
文教大 32―7 駒沢大
創価大 5―3 学習院大
文教大 12―6 横田大
東海大 32―5 創価大
千葉明徳 16―9 都留文大
千葉明徳 21―9 文教大
都留文大 19―4 横国大
駒沢大 12―9 創価大
東海大 12―9 千葉大

女子ベストセブン　▽GK　高倉（日体）　▽FP　藤岡、小林、河原（いずれも筑波）、鈴木紀、石井（ともに日体）、藤本（東女体）。

理由が分からぬ「優勝校欄」の縮少

□…気がかりにしていたことが現実になった――というと、少々オーバーだが、関東学連が発表した秋季リーグの優勝回数「日体男子22度目」、「日体女子25度目」はいずれも誤りである。

同学連は、春季リーグのプログラムから、なぜか、過去の優勝校リストの前半部分を除いてしまった。

1部は戦前部分、2部は22年から6年間、3部は38年から7年間女子1部などは、いきなり40年である。

これを基準にすれば、日体男女の優勝回数は発表どおりでよいが削除された期間にも日体男女をはじめ数々の大学が栄冠を手にしているのだ。過去を知らない現役の学生委たちが、リストにしたがうのは仕方のないこととして、問題はOB理事たちの意識。

「先輩」「伝統」にことさらうるさい学生界が、プログラムのスペース（紙数）の理由だけで、球史の前半を切り捨て、縮少してしまうのはあまりにも乱暴すぎはしないか。それとも、ほかにわけがあるのだろうか。

念のため男女1部の優勝回数を並べておこう。（杉）

〔男子〕日体28、芝工大15、早稲田12、中央、立教各9、筑波、慶応各4、明治3、法政1。

〔女子〕日体34、東女体9、埼玉師範、東京一師各1。

信州大、宿願の初優勝
北信越学生秋季リーグ

北信越学生秋季リーグ戦は10月25、26の両日、福井県体育館に1部5校、2部5校が参加して行われた。

このリーグが1、2部制を採用するのは初めてで、北信越学生界の発展を物語ったが、試合内容もそれにふさわしく、有力とみられた春季1位の金沢工大が、前季4位の信州大の健闘にあって手痛い1敗を喫し、さらに富山大戦も落して、優勝争いからはずれた。

こうなると完全に混戦となり最終カードまで、もつれにもつれたが、金沢大戦の引き分け以外、手固く3勝をあげた伏兵・信州大（長野）がチームワークにものをいわせ、みごとに首位へ躍り出て、45年秋加盟以来、宿願の初優勝を遂げた。

信州大は、北信越学連へは45年に加っているが、29～31年、東海学連に籍をおいたこともある。

新加盟の富山医科薬科大などによる2部は、昨秋の優勝校で地力のある福井大が金沢医大戦で前半4―10の劣勢を一気に逆転、初優勝した。1、2部入れ替え戦は行わず、福井大と長野大が自動的に入れ替わる。

▽1部

金沢大 15（7―9 8―6）15 信州大
金沢工大 18（11―10 7―2）12 長野大
長野大 17（8―6 9―6）12 富山大
信州大 21（10―8 11―6）14 金沢工大
金沢大 22（11―8 11―8）16 長野大
富山大 15（7―7 8―5）12 金沢工大
富山大 19（11―7 8―10）17 金沢大
信州大 19（9―10 10―5）15 長野大
信州大 20（12―4 8―6）10 富山大
金沢工大 19（9―7 10―6）13 金沢大

【順位】①信州大3勝1分②金沢工大2勝2敗（得失点差2）③富山大（マイナス20）④金沢大1勝1分2敗⑤長野大1勝3敗

▽2部

福井大 23―6 富山医薬大
福井大 18―10 金沢美工大
福井大 24―13 新潟大
福井大 16―14 金沢医大
金沢医大 19―9 新潟大
金沢医大 17―14 金沢美工大
金沢医大 23―5 富山医薬大
新潟大 18―16 金沢美工大
新潟大 61―11 富山医薬大
金沢美工大 23―9 富山医薬大

【順位】①福井大4戦全勝②金沢医科大3勝1敗③新潟大1勝3敗④金沢美術工芸大1勝3敗⑤富山医科大4敗。

各地学生リーグ速報

函館大2連勝　北海道学生秋季リーグ戦は、予想どおり函館大×北大が4勝無敗で最終戦に対決、春季優勝で自信をつけた函館大が16―11で快勝、2連覇を飾った。

2部は函館教大、初の3部は北見工大が勝った。

3校による女子は、北海道教大旭川、同釧路、北星大と春季とまったく同じ順位だった。

東海も名城　東海学生秋季リーグ戦は、名城が今シーズンも危気ない攻守で、順当に勝ち進み5戦全勝で2シーズン連続10度目の優勝を飾った。2位は1部昇格したての中部工大が4勝1敗でついた。

8校参加の女子は、復帰した中京がバランスのとれたチーム力を存分に発揮、7連勝で7シーズンぶり20度目の優勝を遂げた。2位以下は中京女、愛知教大、岐阜大三重大、愛知学院、日本福祉大、南山の順だった。

関西は大体大　関西学生秋季リーグ戦の男子1部は、大阪体大が6シーズン連続16度目の優勝となり、地元でのインカレ制覇に向けて好仕上りをみせた。

2位には同志社が47年春以来の食いこみを果たし、3位関大、4位大阪経大、5位関学、6位京都産大、7位近大の順で終った。

女子は、武庫川女大がますます好調で、ついに11シーズン連続13度目と優勝記録を伸ばした。2位は11シーズンつづけて大阪体大。

〜いずれも詳報次号〜

日大1部復帰　関東学生秋季リーグの入れ替え戦男子1～2部の慶応×明治は慶応（残留）日大×順天堂は日大が勝ち、1部カムバックを決めた。

また、東海の男子1～2部入れ替え戦では、春のリーグを部員の交通事故で出場辞退、今秋、2部から再スタートした中京が、三重大に41―10で大勝、1部復帰を決めた。

このほか、関西の女子1～2部入れ替え戦で関学（2部1位）が奈良教大を破って初昇格を遂げた。

▼第33回京大―慶大定期戦

慶応 31（13―8 18―13）21 京大

慶応の24勝2分7敗

▼第27回甲南―慶大定期戦

慶応 31（17―7 14―10）17 甲南

慶応の23勝4敗













こんなとき便利な



ダイワ キャッシュカード。

日常のお引き出しに…

カード1枚で現金自動支払機から手軽に現金が引き出せます。通帳もハンコもいりません。サイフがわりにご利用を…。

時間外のお引き出しに…

ダイワの外壁に面したキャッシュコーナーでは、平日午前8:45～午後6:00(土曜日は午前9:00～午後2:00)まで、また マークのコーナーでは、平日午後5時、土曜午後2時まで現金が引き出せます。

ご出張やお買物の折に…

お出かけ先で現金がご入用になったときダイワの全店にあるキャッシュコーナーや マークのコーナーがお役に立ちます。

給与のお引き出しに…

給与振込制をご採用の場合は、お給料日の朝からカードを使って引き出せます。奥さまもご自宅近くのダイワでどうぞ…。

ダイワキャッシュカードは総合口座(普通預金)をご利用の方におつくりしています。お気軽にお申込みください。

あなたと明日を

預金も
信託も…

大和銀行

マークのコーナーでは設置場所により、お取扱い時間が異なる場合があります。
また、日・祝日および設置場所の休業日はお取扱いしません。

大会ガイド　インカレ近づく

第23回（女子第16回）全日本学生選手権は12月3日から7日まで大阪市中央体育館と東淀川体育館に、男子24校、女子15校が参加してトーナメント法式で行われる。

昨年までの各地学連推せんを改め、今大会から東、西推せん制を軸とした参加校縮少で、かなり精選された内容が期待できる。

すでに決まった組み合せをみながら、優勝の行方を探ってみよう。

◇男子　日体（関東）の4連覇が成るか、阻むとすればどこか、今年も焦点に変わりはない。

ただ、これまでとちがうのは、今年の日体は関東春季、東日本とタイトルを逃し、ようやく秋になって関東優勝を果したにすぎないことである。

GKにナンバー・ワン井藤をもつものの、攻防両面でいつになく死角が多いといわれる日体をめぐって、かなり波乱ぶくみの展開になりそうだ。

Aパートでは、大阪体大(関西)×と早稲田（関東）の争いとみて間違いない。

大阪体大は関西学生6連勝、西日本学生9連勝と西では圧倒的な力を示すのだが、関東勢相手にはどうもブが悪い。決勝進出も5年前に1回あるだけで、今年もホームコートで張り切っているとはいえ、早稲田戦は互角、ベストフォア進出には骨が折れそうだ。

Bパートでは法政(関西)×日体の対戦から日体の勝ちあがりだろう。

法政は秋のリーグで17―19と惜敗しているだけに、まったく勝機がないわけではない。

一本勝負は気力がえてして勝負を左右する。法政の闘志によっては、大波乱も期待できる。

Cパートは、すんなり東日本学生優勝の筑波（関東）がベストフォアに進もう。

Dパートは中央（関東）×名城（東海）が注目の好カード。

中央は、春の関東を制して、そのメンバーから、再び黄金時代を招くのではないか、と思われたがそのあと、一気に突走るようなパワーが影をひそめている。

一方の名城は、相変らず粒の揃った布陣で、打倒東・西の宿願に挑む。

問題は毎回いわれるように、せり合った時の微妙な展開力である。

全試合気の抜けない関東で、もまれている中央としては、ここらあたりに余裕を見出せよう。

順当ならベストフォアは大阪体大または早稲田×日体、筑波×中央だろう。

大阪体大は、定期戦で日体に10点差をつけられており、この顔合せだと日体有利。

大阪体大に代って早稲田となると予断を許せない。

早稲田のエキサイティングなハンドボールが、額面どおり発揮されれば、日体も苦しい。

早稲田としては、なんとしても大阪体大戦から上げ潮にのりたいところだ。

筑波×中央は予断を許さない。安定感からいうと筑波を買いたいがどうか。

中央は守りの粘りにカギがあろう。

一気に決勝の予想をする前に、ダークホース群にふれておきたい。筆頭は国士舘(関東)。春より一段と攻守に鋭さが加わり、勝負欲も出て来ている。

久留米工大（九州）の評判もいい。西日本学生では同志社(関西)に善戦している。初登場の函館大（北海道）を加えたこの三校の星のつぶしあいは、序盤のみものである。

このほか、9年ぶりに登場の関学(関西)、22回目の出場となる東北学院(東北)、上昇機運の関大（関西)、北信越の新星・信州大などの試合ぶりも興味深い。

最近3年間連続準優勝という日大（関東）は、今春、関東学生でまさかと思った2部落ち、東日本学生ではベストエイトまで盛り返したが、この一年の汚名を今大会にかけており、筑波戦はもつれそうだ。慶応(関東)、福岡大(九州)は波にのればといったところか。

さて決勝戦。日体×筑波か日体×中央か、それとも早稲田×中央か、早稲田×筑波か。

どのカードがどうなるというより、ズバリ優勝可能順位を①日体②筑波③中央④早稲田⑤大阪体大とつけておくに留めよう。

注目の武庫川女大

◇女子　全般のレベルアップがあるとはいえ、優勝を争う実力があるのは4連勝目指す東女体大、日体、筑波の関東トリオ、武庫川女、大阪体大の関西二強にしぼられよう。

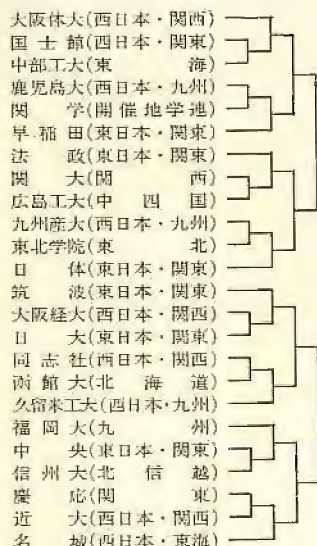
伝統の東海勢は愛知教大、中京女とも、今年はスケールが小さいようで、むしろ福岡教大（九州）株が上っている。2年連続2位の日女体大も苦しい布陣。

ベストフォアの組み合せは、波乱なく進めば日体×東女体大、武庫川女×筑波だろう。

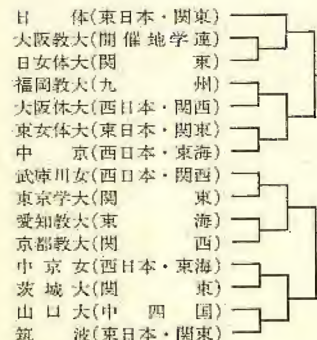
東女体大のパートは福岡教大、大阪体大、中京がひしめく激戦で東女体大もすんなりとは行かないものの、女王としては、ここでつまづくわけにはいくまい。

決勝戦は、秋の仕上りからみて日体×筑波か日体×武庫川女と思われ、日体、筑波、武庫川女のランクか。

◇…男　子…◇



◇…女　子…◇



西ドイツ留学から帰国の
早川清孝コーチに聞く

日本体育協会のスポーツ指導者在外研修員の第一期生として、昨年十月から西ドイツに派遣されていた早川清孝コーチ（33才、日体大出、京都市芸大教員、ミュンヘンオリンピック代表選手）が、このほど、一年間の留学期間を終えて、元気に帰国した。
本誌では留学中の模様や西ドイツのハンドボール事情を聞いてみた。

――1年間の留学生活はどんなものだったか

早川清孝コーチ　ケルン体育大学の聴講生として、同大学の「ハンドボール・コース」に冬学期と夏学期の二期、通学した。

――「ハンドボール・コース」というのは？

早川コーチ　月曜から金曜までハンドボールのすべてが、専門教授によって講義される。

内容は、実技と講義で、水曜日などは朝9時から夜9時まで授業が詰まっている。

――学生の数や「質」は？

早川コーチ　一クラス15～20名で、日本の一般教養にあたる「基礎コース」は、一般の体育教師、スポーツトレーナー志望の学生も多いが、「専門コース」は将来、ハンドボールのプロ・コーチを目指すものばかりで、ブンデス・リガ（全国リーグ）の現役選手も受けに来ている。

それだけに「専門コース」の実技のレベルは、相当なもので、僕も、ついていけないことがあった

――語学は

早川コーチ　これには苦労しました。派遣が決まってから、一応の勉強はしていったし、向こうの寄宿舎で、ドイツ人と同室にしてもらうなどしたため、日常の会話は、なんとかこなせたが、講義がすべて分かるまでには、ちょっと……。

――クラブには加わらなかったのか

早川コーチ　全国リーグの名門VfL・グンメルスバッハのハース・オーナーが、大変親切にしてくれ、イワネスク監督の了解もあって、同クラブで、コーチングを習うことができた。

プレーは、ミッテルハイン地域の上級リーグに所属している「オリンピア・ロンゲリッヒ」で、時おり、試合に出場した。

――留学で得たあなた自身の収穫は

早川コーチ　ハンドボールの技術、戦術という面では、日本にも多くのヨーロッパのナショナルチームや、有力クラブが来ているので、あまり驚ろかされることはなかったが、私自身のハンドボール観、スポーツ観というものは我ながら大きく変ったと思っている。

具体的にいえば、西ドイツ指導者のスポーツ、ハンドボールに対する取り組みかただ。

彼らは、実にどん欲にハンドボールのすべてを吸収しようとして授業をうける。そして、自からプレーする時の燃えかたも、すさまじいものがある。

彼らの、とことんまでハンドボールをやり抜こうという気構えには、圧倒されたり、感動もさせられた。

僕も、そうした人たちに接してやれるだけのことはやってみようという気を新たにした。スポーツハンドボールというものは、それだけの情熱をかける奥行の深さがある、ということを悟った。

――西ドイツの人たちが、そこまで燃えるのは、ハンドボールが＜国技＞だからだろうか

早川コーチ　それもあるし、それだけの"値打ち"があることも見逃せない。

――というと？

早川コーチ　彼らは、ハンドボールのエキスパートになれば、これで生活していける、という目標があるのだ。

有力クラブの選手やコーチになれば、それだけで、かなりの収入を得られる。

――プロとまではいかないまでもノン・アマチュアなわけか

早川コーチ　コーチ（トレーナー）は、完全にプロとしてやっていける。

選手は、あくまでアマチュアだが、ナショナル・プレイヤーには国家的な後援組織からA、B、Cランクの助成金が出ている。

――どのくらいの額が選手に支払われるのだろう

早川コーチ　詳くは分からないが、ナショナルチームの控選手クラスで月に千マルク（約十三万円）程度のようだ。このクラスの選手になると、有力クラブのレギュラーとして、所属クラブからも、何がしかの試合手当が支払われているから、学生なら、かなりの生活ができる。こうした環境があれば張り切らざるを得ない。

――日本の選手と比較して、感じることがあったか

早川コーチ　最近の日本のナショナルプレイヤーは、誇りと目的意識に欠ける面があるのではないか。ヨーロッパのトップクラスのハンドボールへの打ちこみかたはすごい。これは、あながち"収入"があるから、とはいい切れないだろう。

――ところで、日本体協は在外研修員に、国際連盟の役員などとのつながりを強めるよう望んでいたが

早川コーチ　世界ジュニアやスーパーカップなどのビッグイベント、それにグンメルスバッハとの滞同などで、出来るだけ各国の有力者と会うように努力したが、滞在期間の短かさで必しも充分な成果は、あげられなかった。

――今後のあなたの方向は

早川コーチ　12月の全日本総合に大阪イーグルスから選手として出られればと思っている。また、強化コーチとしては荒川強化部長竹野監督と相談して、出来る範囲でお手伝いをしたい。また、今回学んできたものを、大学チームで教える希望も持っている。

――後進へのアドバイスは

早川コーチ　日本体協のこの制度はすばらしい。是非、来年はどなたかが行って欲しい。今からリストアップして、語学をつんでおけば、よい成果が期待できる。了

公認スポーツ指導者について

大西武三
（日本協会普及担当常務理事）

この紙面をお借りして、何回か公認スポーツ指導者組織についての現状を述べてまいりましたが、今年度は、日本ハンドボール協会内に公認ハンドボール指導者の全国的組織を位置づけるように普及部では仕事を進めております。すでに各都道府県では、スポーツ指導者協議会があり、その協議会によって、全国スポーツ指導者連絡協議会が発足しております。又競技部門別では、各競技連盟内に各都道府県の競技別スポーツ指導者協議会よりなる全国競技別スポーツ指導者協議会ができている連盟が多くあります。

日本ハンドボール協会には、公認スポーツ指導者を生みながらまだ組織されずに終っております。何としても今年度中には形をみたいものだと思っております。さる常務理事会でも、この件がとり上げられ現状の認識がなされ、早急な今後の対策が望まれました。ハンドボールの公認スポーツ指導者の登録状況は次の表の通りです登録数をみるとスポーツ指導員の数が極端に少ないのがわかります

公認スポーツ指導者登録現況　55. 5. 1

	スポーツ指導員	スポーツトレーナー	上級コーチ	コーチ
全国	人 15103	2360	771	368
ハンドボール	27	—	25	0
陸上	625	—	8	146
水泳	469	—	21	—
サッカー	617		169	—
バレー	3548		76	18
バスケット	419	—	34	—

スポーツ指導員は、各都道府県の体協と各都道府県競技団体が一致して講習会の実施するものである。スポーツ指導員の役割りは主として地域におけるスポーツ活動を実践しているグループやクラブを対象に、導入的、基礎的なスポーツの技術の指導や、一般的な身体活動の指導を行ない、かつ活動組織の育成指導にあたる者である

ママさんハンドボール、パパさんハンドボール、あるいは、ちびっこハンドボールや各中・高校のOB・OGのクラブの組織の指導的役割を演ずる人々である。こうした底辺のハンドボールを支えるチームの世話役であるスポーツ指導員が非常に少ないのは残念なことである。今のハンドボール界に望まれるのは、上級コーチやコーチより、こうした普及の底辺につながる人々の養成であると思われる。

このハンドボールのスポーツ指導者は県別にすると11県である。どのような活動をされているか普及部としては知りたいものである。今年は、広島県（平田幸男理事長）と山口県（田原正美理事長）でスポーツ指導員養成講習会が開催されている。ハンドボールは、普及が遅れているのでスポーツ指導員の養成をしてもらいたいものだと思われるが、都道府県の方では、普及されているスポーツで指導員の足りないスポーツから養成講習会が行われると言われる。従っていくら各都道府県の協会がハンドボールのスポーツ指導者の講習会を実施しようとしてもなかなか出来ないということである。そういう中にあって今年広島と山口で行われることは、非常に意義あるものとして評価しなければならない。

ところで、本年度の日本ハンドボール協会の公認スポーツ指導者の養成は、「コーチ」である。機関紙でも報告した通り35名の受講者によって進められている。

昨年度から共通教科が8カ月間にわたる通信教育によって行われている問くところによれば、送られてくるテキストとレポートに悲鳴をあげているとか。

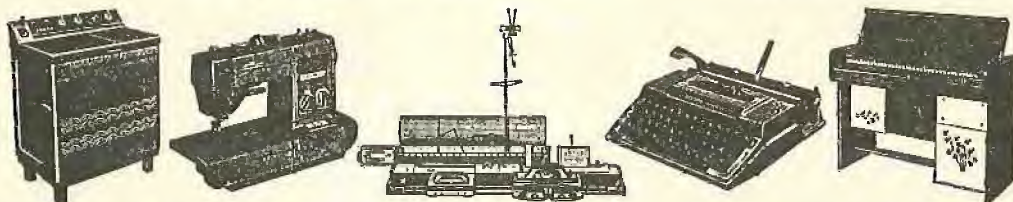
しかしながら、内容ある資料に大変勉強になっていると聞く。この通信教育が終了すると56年2月10日～15日まで行われる専門教科の講習会に参加することになる。

現在、専門教科の内容の最終的な検討を進めているが、前回の「上級コーチ」の反省のもとに「コーチ講習会」にふさわしい内容で行うつもりである。

公認スポーツ指導者の資格取得についてのメリットについてはいろいろなことが言われている。資格を取ることによる資質の向上を別にすれば、ハンドボールの全国スポーツ指導者組織が位置づけられた後には、かなりその活用については明確なものが出来上っているはずである。

西独クラブ来日か　西ドイツ・ベルリン地域の体育連盟（ターンゲマイデ・ベルリン）ハンドボールチームは、来秋、日本遠征を計画している。日本協会の態度は未定。





プレス・ルーム <28>

杉　山　　茂
――(ＮＨＫ運動部)―

■ＯＧの希望も分かるけど

首都圏では6年ぶりの国体とあって、仕事を離れ〝栃の葉ハンドボール〟を見物した。

新装の栃木市総合体育館がハンドボールのために考えられたような設計だったのは驚いたし、嬉しいことだった。

それに、大きな練習用体育館が付属していたのもよかった。選手たちも、これには大喜びで、こうした心配りの施設が増えると、日本のスポーツも、先進のヨーロッパにぐんと追いつける。

冬の全日本総合などで、練習コートに恵れず、東京体育館前のアスファルト路上で練習している風景は、わびしすぎる。

ところで、栃木では、たくさんのＯＧに会えた。

二年にいちどの成年女子全県参加。彼女たちが、この日を心待ちにしていたのが、よく分かった。

そして「日本リーグ勢は遠慮してもらえるといいのだけど……」というのがいつもの意見も、聞いた。

僕はいったものだ。「でもね、いまの成年女子の県別普及度をみると、日本リーグ勢や実業団が出場辞退をしても、ＯＧクラブは、そうは増えないと思うよ」。

もちろん、彼女たちも黙ってはいない。「そんなことはない。いちど試してごらんなさい。きっと一県に二チームや三チーム…」「そうよ、そうよ」。

たしかに、それも分かる。しかし、僕は、日本リーグ加盟チームや、実業団チームが居ようが居まいが、つねに一県に、二、三などといわず、五つも六つものＯＧクラブが活動していて欲しい。

そうした〝態勢〟がととのったところで、国体の〈解放〉を望んでもらいたいのだ。

「いってる意味は分かるけど、だけどねエ……」と、ＯＧたちの心からの賛同は、得られず仕舞だったが、これは、なにもＯＧたちに〝責任〟があるわけではない。

日本協会なり地方協会なりを預る人たちが、折りにふれＯＧのトーナメントを積極的に開催することでも、充分、成果はあがるハズである。

いい言葉ではないが、「国体をエサにしなければ、一般女子の拡充が企れない」というのでは、頼りなさすぎる。

それに、国体全県参加の年といいながら、今年5月末現在の日本協会登録で一般女子ゼロの地方協会が6県もあるのである。

この現状のなかでは、せめて、実業団という名のトップチームによって、〝活況〟を保ってもらわないと、日本の一般女子界は、まったく、その存在を忘れられてしまうと、僕は思う。

■法人化を前に静かすぎませんか

懸案の財団法人化が、どうやら年内には、ということである。

その割に、日本協会周辺は静かだ。法人化が果たされたら、いま以上に、ハンドボールの発展に対する社会的責任が増大されるであろうに、いっこうに、活気のある動きが示されないのは、不思議としか、いいようがない。

ひところの法人化への関心は、「理事数」がどうなるか、の一点だけだったのだよ、などという辛らつなみかたを口にする人もいたが、新理事のかたの責任感とみれば、聞き流せた。

だが、それは、いささか、こちらのみかたの甘さだった、となるとにわかに「法人後」が、心配になってくる。

例えば、法人化されれば、各専門委員会と事務局の働きが、大きな推進役になるわけなのだが、少なくとも、いまのまま、なだれこんだら、一気に動脈硬化を来すだろう。

事務局に適確な指示を与える人も少ければ、かといって事務局にある範囲内での権限を与えているわけでもない。

法人としての事業を誰がどう考えていくか、にしたって、もうそろそろアウトラインなりが明きらかにされてもいいのだが、いっこうに、その気配はない。

全国大会の回数を、年ごとに一つづつ増やしていくだけのことなら、なにも、法人にする必要などないのだ。

法人を急いだのには、それだけの理由があったのだろうし、気構えも、備わっていたと思いたい。

法人化が秒読みとなった今も、これまでどおり、常務理事会が月に一回のままという神経も恐れいる。

一週に一度、せめて十日に一度は、常務理事が集合し、法人後の飛躍に向かって、策をこうじて欲しかった。

旧態依然の感覚で法人となるなら、何度もいうようだが、その活動は、すぐに行き詰まる。

「そんなことで法人化後、うまくコトが運びますか」と懸念する僕を、何人もの人がこういって慰めてくれた。

「君はいったい、法人になる日本協会になにを期待しているのだ変わりようがあるとでも思うのかい」と。

情ないがいわれてみれば、そんなものかな、とも思う。

でも、四十二年にわたる日本ハンドボール協会の歴史を閉じてまで迎える新しい出発なのだ。変わりようがないで済まされていいものだろうか。「法人になったら」と希望を抱いている人は僕だけではないハズである。

各地の記録

10年経っても大崎電気

10年ぶりで復活した第4回関東実業団選手権（男子のみ）は、9月27、28の両日横浜文化体育館に14チームが参加してトーナメント法式で争われた。

決勝は大崎電気（埼玉）×三景（東京）の日本リーグ2部勢の顔合せとなり、準決勝で三陽商会（東京）を破って意気あがる大崎が後半力感あふれる攻撃で三景を突き放した。

大崎は42、43、45年の前3回にも優勝しており、これで4連勝。

3位に入った中村荷役運輸（東京）は、今春発足したチーム。

なお、女子は日程の関係で行われず、来年に復活の予定。

▽1回戦
丸善石油(千葉) 20—11 日本鋼管(神奈川)
日本原子力研(茨城) 20—15 安田生命(東京)
大崎電気(埼玉) 26—8 日本発条(神奈川)
セントラル自動車(神奈川) 20—6 日産石油化学(千葉)
中村荷役運輸(東京) 26—13 三井石油化学千葉(千葉)
日進商会(神奈川) 16—14 出光興産千葉(千葉)

▽準々決勝
三陽商会(東京) 36（20—4、16—3）7 丸善石油千葉
大崎電気 34（18—4、16—5）9 日本原子力研究所
中村荷役運輸 24（14—8、10—5）13 セントラル自動車
三景(東京) 34（13—7、21—4）11 日進商会

▽準決勝
大崎電気 34（17—7、17—12）19 三陽商会
三景 23（12—13、11—9）22 中村荷役運輸

▽決勝
大崎電気 30（18—10、12—11）21 三景

女子で千葉ク初優勝

▼第7回千葉県総合選手権（10月 佐原高体育館）

▽男子準々決勝
千葉教員 31—4 東邦高
市原ク 12—7 小金ク
木更津ク 10—9 清水ク
若潮ク 19—11 佐原ク

▽同準決勝
千葉教員 32—8 市原ク
若潮ク 32—21 木更津ク

▽同決勝
千葉教員 43（18—7、25—1）8 若潮ク

▽女子準々決勝
昭和学院高 5—4 朝顔ク
流山中央高 10—2 佐原高
東邦高 9—7 水郷ク
千葉ク 16—3 佐原女高

▽同準決勝
昭和学院高 22—5 流山中央高
千葉ク 22—4 東邦高

▽同決勝
千葉ク 13（6—6、7—3）9 昭和学院高

▽中学男子決勝
市川 14—11 柏第三

▽同女子決勝
佐原四 不戦勝 市川三

湯沢ク、大曲同志会に大勝

▼第31回秋田県民体育大会ハンドボール競技（湯沢高）

▽一般男子1回戦（3試合）
大農ク 26—25 下北手ク
大曲ク 16—13 VSOP
大曲同志会 15—14 ナミキ宝石ク

▽同準決勝
湯沢ク 41—23 大農ク
大曲同志会 18—16 大曲ク

▽同決勝
湯沢ク 43（26—11、17—4）15 大曲同志会

▽高校男子準決勝
大曲農 37—8 秋田南
湯沢 31—12 大曲

▽同決勝
大曲農 14（5—6、9—5）11 湯沢

▽同女子決勝
和洋 12（5—6、7—4）10 大曲農

高校は盛岡商と花巻南

▼第32回岩手県民体育大会ハンドボール競技（花巻北高）

▽一般男子1部準決勝
岩手教員ク 24—21 花巻ク
盛岡商友会 18—17 花巻送球会

▽同決勝
岩手教員ク 23（15—10、8—8）18 盛岡商友会

▽同2部準決勝
岩手大 16—10 盛岡ク
岩手自衛隊 16—13 水沢OB

▽同決勝
岩手大 20—11 岩手自衛隊

▽同女子決勝
桐花ク 13（4—1、9—2）3 三英英会

▽高校男子準々決勝
盛岡一 25—14 岩手商
盛岡商 20—9 生活学園
花巻北 19—10 大迫
盛岡四 22—8 花巻農

▽同準決勝
盛岡商 17—16 盛岡一
盛岡四 27—13 花巻北

▽同決勝
盛岡商 19（11—10、8—8）18 盛岡四

▽同女子準々決勝
花巻南 15—1 釜石商
平舘 10—3 花巻農
花巻北 10—4 釜石南
盛岡二 12—7 黒沢尻南

▽同準決勝
花巻南 13—2 平舘
盛岡二 18—5 花巻北

▽同決勝
花巻南 10（3—4、7—3）7 盛岡二

添上、郡山ら勝つ

▼第33回奈良県高校総体（9月・正強高）

▽男子Aブロック準決勝
添上 9—5 正強
奈良 14—9 斑鳩

▽同決勝
添上 13—7 奈良

▽同Bブロック決勝
橿原 17—5 広陵
奈良工 17—9 郡山

▽同決勝
奈良工 21—12 橿原

▽女子Aブロック準決勝
帝塚山 6—2 一条
郡山 6—1 短大付

▽同決勝
郡山 13—1 帝塚山

▽同Bブロック準決勝
添上 29—0 生駒
十津川 11—2 橿原

▽同決勝
添上 5—4 十津川

▼第7回青森社会人秋季大会（10月・青森市民体育館）＝男子のみ

▽準々決勝
青森ク 40—16 十和田ク
紫球会 9（分）9 北里大
PTC2—1で紫球会の勝ち
青森クB 22—19 大湊航空隊
七戸ユニオン 29—10 野辺地ク

▽準決勝
青森ク 22—10 紫球会
青森クB 16（延）15 七戸ユニオン

▽決勝
青森ク 22（12—12、10—8）20 青森クB

男子で本田技研順当勝ち

▼第31回三重県総合選手権（9月・津高）

▽男子準々決勝
尾鷲ク 20―12 ジャスコ女子
本田技研 28―15 三重教員
本田技研B 33―14 セブンスター
本田技研C 20―9 ガラクトーズ

▽同準決勝
本田技研 24―15 本田技研B
本田技研C 21―18 尾鷲ク

▽同決勝
本田技研 31（13―18 18―3）21 C本田技研

＜注＞ジャスコ女子チームが男子に特別参加、1回戦で高田高Bに26―7、2回戦で海星高に30―8、3回戦で亀山高OBに33―5で勝ち、ベストエイト入りした。

▽女子準々決勝
暁OG 17―8 津女高B
暁高B 14―7 むつみケ丘ク
津女高 13―8 四日市商B
田村紡OG 11―6 暁高

▽同準決勝
津女高 20―11 暁OG
暁高B 12（延）10 田村紡OG

▽同決勝
暁高 7（5―0 2―3）3 津女高

ブロック中学大会

◆近畿

▽男子予選リーグ組
緑ケ丘（奈良）9―7 那賀（和歌山）
桃山（京都）6（分）6 緑ケ丘
那賀 20―16 桃山

▽同2組
大淀（大阪）13―12 鳥居本（滋賀）
大淀 16―14 高取台（兵庫）
高取台 19―17 鳥居本

▽同3組
四条（京都）14―8 衣川（兵庫）
衣川 14―13 彦根西（滋賀）
四条 11―8 彦根西

▽同4組
月州（大阪）7（分）7 生駒（奈良）
生駒 14―5 金屋（和歌山）
月州 19―13 金屋

▽同決勝トーナメント1回戦
緑ケ丘 13（2―2 2―0 … 5―4 4―5）11 大淀
生駒 16（6―4 10―5）9 四条

▽同決勝
生駒 12（8―2 4―3）5 緑ケ丘

▽女子予選リーグ1組
能登川（滋賀）11―9 丸山（兵庫）
丸山 12―9 嵯峨（京都）
能登川 18―4 嵯峨

▽同2組
光陽（大阪）13―9 岩手（和歌山）
岩手 15―11 生駒（奈良）
光陽 14―4 生駒

▽同3組
桃山（和歌山）6（分）6 緑ケ丘（奈良）
大久保（兵庫）14―6 緑ケ丘
大久保 11（分）11 桃山

▽同4組
四条（京都）11―8 彦根西（滋賀）
彦根西 18―6 新北野（大阪）
新北野 10―9 四条

▽同決勝トーナメント1回戦
光陽 16（2―1 2―1 … 3―3 1―1 … 5―4 3―4）14 能登川
彦根西 10（5―3 5―2）5 大久保

▽同決勝
彦根西 9（4―3 5―4）7 光陽

◆中国

▽男子1回戦
下松（山口）22―11 倉敷南（岡山）
江東（島根）11―7 長浜（広島）

▽同決勝
大松 25（12―5 13―6）11 長浜

▽女子1回戦
住吉（山口）25―5 操南（岡山）
比治山（広島）12―6 江東（島根）

▽同決勝
住吉 36（18―2 18―2）4 比治山

名大ク、第1回大会落とす

対円光大ク国際定期戦

単独チームによる初の本格的国際定期戦として注目されている名古屋大ク（愛知）と韓国・円光大クの第1回定期戦は10月19、20日名古屋大クが遠征して行われ、円光大クが2勝をあげて“優勝”した。

第2回定期戦は、来年8月、円光大クが来日、名古屋で行われる予定。

▽第1戦（10月19日・全州市立体育館）
円光大ク 23（13―9 10―9）18 名古屋大ク

▽第2戦（20日・円光大体育館）
円光大ク 23（13―10 10―12）22 名古屋大ク

★リポーター募集　編集委員会では、日本協会財団法人後の体制として各地の常連寄稿者（リポーター）を募ります。原則として35才以下。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一九一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五五年十月二十五日印刷 昭和五五年十一月一日発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円(年間購読料三千三百円)